執達吏ノ職務細則竝ニ保證金ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百條 執達吏ハ其ノ所屬裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ書記ノ上官ノ命令ニ從フ

第六章 廷丁

第百一條 廷丁ハ大審院控訟院及地方裁判所ニ於テハ裁判所長區裁判所ニ於テハ地方裁判所長之ヲ雇ヒ及其ノ雇ヲ解ク

第百二條 廷丁ハ開廷ニ出頭セシメ及司法大臣ノ發シタル一般ノ規則中ニ定メタル事務ヲ取扱ハシム

區裁判所ハ執達吏ヲ用ヰルコト能ハサルトキハ其ノ裁判所所在地ニ於テ書類ヲ送達スル爲廷丁ヲ用ヰルコトヲ得

第三編 司法事務ノ取扱

第一章 開廷

第百三條 開廷ハ裁判所又ハ支部ニ於テ之ヲ爲ス

司法大臣ニ於テ事情ニ因リ必要ナリト認ムルトキハ區裁判所ヲシテ其ノ管轄區域內ノ一定ノ場所ニ於テ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第百四條 訴訟審問ノ上席及指揮ハ合議裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル裁判長ニ屬シ區裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル判事ニ屬ス

裁判長ニ屬スル權ハ裁判上一人ニテ執務スル判事ニモ亦屬ス

第百五條 裁判所ニ於テ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ハ其理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

第百六條 裁判長ハ公開ヲ停メタルトキモ入廷ノ特許ヲ與フルコトヲ至當ト認ムル者ヲ入廷セシムルノ權ヲ有ス

第百七條 裁判長ハ婦女兒童及相當ナル衣服ヲ著セサル者ヲ法廷ヨリ退カシムルコトヲ得其ノ理由ハ之ヲ訴訟ノ記錄ニ記入ス

第百八條 開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

第百九條 裁判長ハ審問ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムルノ權ヲ有ス

前項ニ掲ケタル違犯者ノ行狀ニ因リ之ヲ拘引シ閉廷ノトキマテ之ヲ勾留ス

ルノ必要アリト認ムルトキ裁判長ハ之ヲ命令スルノ權ヲ有ス閉廷ノトキ裁判所ハ之ヲ釋放スルコトヲ命シ又ハ五圓以下ノ罰金若ハ五日以內ノ勾留ニ處スルコトヲ得

此ノ處罰ニ對シテハ上告ヲ許シ控訴ヲ許サス且其ノ所爲ノ輕罪若ハ重罪ニ該ルヘキモノナルトキハ之ニ對シテ刑事訴追ヲ爲スコトヲ得

第百十條 前條ノ規程ハ左ノ變更ヲ以テ當事者證人及鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス

第一 裁判所ハ閉廷ヲ待タスシテ本條ノ違犯者ヲ即時ニ罰スルコトヲ得

第二 違犯者原告ナルトキハ裁判所ハ處罰ノ上仍本人宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ謝スルマテ其ノ審問ヲ中止スルコトヲ得

第百十一條 裁判長ハ不當ノ言語ヲ用ヰル辯護士ニ對シ同事件ニ付引續キ陳述スルノ權ヲ行フコトヲ禁スルコトヲ得其ノ禁止ハ此ノ行狀ニ付懲戒上ノ訴追ヲ爲スコトヲ妨ケス

第百十二條 裁判所ノ開廷中秩序ヲ維持スル爲第百九條第百十條及第百十一條ヲ以テ與ヘタル權ハ豫審判事又ハ受命判事又ハ法律ニ從ヒ其ノ職務ヲ行フ試補モ亦之ヲ行フコトヲ得

此ノ場合ニ於テノ異議ハ二十四時以內ニ其ノ判事又ハ試補ニ之ヲ申出ルコトヲ得

豫審判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ノ屬スル裁判所ノ刑事部若ハ刑事支部ニ於テ前項ノ異議ヲ裁判ス受命判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ニ命シタル裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第百十三條 第百九條第百十條第百十一條及第百十二條ヲ以テ與ヘタル權ヲ行ヒタルトキハ訴訟ノ記錄ニ之ヲ記入シ及其ノ理由ヲ記ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ所爲ノ重罪若ハ輕罪ニ該ルヘキモノナルカ又ハ懲戒上罰スヘキモノナルトキハ詳細ニ之ヲ記入シ裁判長ハ其ノ事件ヲ更ニ處分スルノ權アル官廳ニ報告ヲ爲ス

第百十四條 判事檢事及裁判所書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ著ス

前項ノ開廷ニ於テ審問ニ參與スル辯護士モ亦一定ノ職服ヲ著スルコトヲ要ス

第二章　裁判所ノ用語

第百十五條　裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ウ

當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用ヰルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用ウ

第百十六條　通事ノ任命及使用竝ニ訴訟手續上其ノ行フヘキ職務ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百十七條　通事ノ得難キ場合ニ於テ書記其ノ言語ニ通スルトキハ裁判長ノ承諾ヲ得テ通事ニ用ヰラルルコトヲ得

第百十八條　外國人ノ當事者タル訴訟ニ關係ヲ有スル者及其ノ訴訟ノ審問ニ參與スル官吏ノ或ル外國語ニ通スル場合ニ於テ裁判長便利ト認ムルトキハ其ノ外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ審問ノ公正記錄ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ル

第三章　裁判ノ評議及言渡

第百十九條　合議裁判所ノ裁判ハ此ノ法律ニ從ヒ定數ノ判事之ヲ評議シ及之

ヲ言渡ス

第百二十條　四日以上引續クヘキ見込アル刑事ノ審問ニ於テ裁判所長ハ補充判事一人ヲ命シ之ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ補充判事ハ其ノ審問中或ル判事ノ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審問及裁判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第百二十一條　判事ノ評議ハ之ヲ公行セス但シ豫備判事及試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

判事ノ評議ハ其ノ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顚末竝ニ各判事ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ祕密ヲ守ルコトヲ要ス

第百二十二條　評議ノ際各判事意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス官等同キトキハ年少ノ者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命判事ヲ始トス

第百二十三條　裁判ハ過半數ノ意見ニ依ル

金額ニ付判事ノ意見三說以上ニ分レ其ノ說各々過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ニ合算ス

刑事ニ付其ノ意見三說以上ニ分レ各々過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至

ルマテ被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第百二十四條　判事ハ裁判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第四章　裁判所及檢事局ノ事務章程

第百二十五條　裁判所及檢事局ノ標準ト爲スヘキ規則ハ司法大臣之ヲ定ム

控訴院長及檢事長ハ前項ノ規則ニ依リ各自管轄區域内ノ裁判所及檢事局ニ對シテ事務ノ一般ノ取扱ニ關リ成ルヘク統一ヲ旨トシ殊ニ裁判所及檢事局ノ開廳時間及開廷ノ時日ニ付キ訓令ヲ發ス

大審院ハ自ラ其ノ事務章程ヲ定ム但シ之ヲ實施スル前司法大臣ノ認可ヲ受ク

第五章　司法年度及休暇

第百二十六條　司法年度ハ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ハル

第百二十七條　裁判所ノ休暇ハ七月十一日ニ始マリ九月十日ニ終ハル

第百二十八條　休暇中ハ左ノ事件ノ外既ニ著手シタル民事訴訟ヲ中止ス且新

ナル訴訟ニ著手セス

第一　爲替手形若ハ約束手形其ノ他ノ流通證書ニ關スル請求

第二　船舶又ハ運送賃又ハ積荷ニ對スル請求

第三　財産差押事件

第四　住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若ハ所持品ヲ賃貸人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃貸人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

第五　養料ノ請求

第六　保證ヲ出サシムルノ請求

第七　取掛リタル建築ノ繼續ニ關ル事件

第八　前數項ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ判事ニ於テ又ハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ休暇部若ハ休暇部長ニ於テ直ニ著手スヘキ緊急ノモノト認メタル請求若ハ事件

第百二十九條　休暇中ニ拘ラス刑事訴訟非訟事件判決執行破産事件竝ニ民事訴訟法ニ依リ略式ヲ以テ取扱フコトヲ得ヘキ訴訟ハ之ヲ停止スルコトナシ

第百三十條　合議裁判所ニ於テハ休暇中事務取扱ノ爲休暇部ト稱スル一若ハ

二以上ノ部ヲ設ク

休暇部ノ組立ハ休暇ノ始マル前裁判所長之ヲ定ム第二十三條ハ此ノ部ニモ亦之ヲ適用ス

二人以上ノ判事ヲ置キタル區裁判所ノ休暇事務取扱方法ハ監督判事之ヲ定ム

第六章　法律上ノ共助

第百三十一條　裁判所ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依リ互ニ法律上ノ輔助ヲ爲ス

法律上ノ輔助ハ別ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第百三十二條　檢事局モ亦各自ノ管轄區域内ニ於テ取扱フヘキ事務ニ付互ニ法律上ノ輔助ヲ爲ス

第百三十三條　裁判所書記課モ亦其ノ權内ノ事件又ハ其ノ配下ノ執達吏ノ權内ノ事件ニ付互ニ法律上ノ輔助ヲ爲ス

第四編　司法行政ノ職務及監督權

第百三十四條　合議裁判所長區裁判所ノ判事若ハ監督判事檢事總長檢事長檢事正ハ司法大臣ノ由テ以テ司法行政ノ職務ヲ行フノ官吏トス

第百三十五條　司法行政監督權ノ施行ハ左ノ規程ニ依ル

第一　司法大臣ハ各裁判所及各檢事局ヲ監督ス

第二　大審院長ハ大審院ヲ監督ス

第三　控訴院長ハ其ノ管轄區域内ノ下級裁判所ヲ監督ス

第四　地方裁判所長ハ其ノ裁判所若ハ其ノ支部及其ノ管轄區域内ノ區裁判所ヲ監督ス

第五　區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所所屬ノ書記及執達吏ヲ監督ス

第六　檢事總長ハ其ノ檢事局及下級檢事局ヲ監督ス

第七　檢事長ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル控訴院管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス

第八　檢事正ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區

域内ノ検事局ヲ監督ス

第百三十六條 前條ニ掲ケタル監督權ハ左ノ事項ヲ包含ス

第一 官吏不適當又ハ不充分ニ取扱ヒタル事務ニ付其ノ注意ヲ促シ竝ニ適當ニ其ノ事務ヲ取扱フコトヲ之ニ訓令スル事

第二 官吏ノ職務上ト否トニ拘ラス其ノ地位ニ不相應ナル行狀ニ付之ニ諭告スル事

但シ此ノ諭告ヲ爲ス前其ノ官吏ヲシテ辯明ヲ爲スコトヲ得セシムヘシ

第百三十七條 第十八條及第八十四條ニ掲ケタル官吏ハ第百三十五條ニ依リ行フヘキ監督ヲ受クルノ官吏中ニ之ヲ包含ス

第百三十八條 裁判所若ハ檢事局ノ官吏ニシテ適當ニ其ノ職務ヲ行ハサル者又ハ其ノ行狀其ノ地位ニ不相應ナル者ニ付第百三十六條ヲ適用スルコト能ハサルトキハ懲戒法ニ從ヒ之ヲ訴追ス

第百三十九條 前數條ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ハ判事若ハ檢事其ノ官吏タルノ資格又ハ其ノ他ノ資格ヲ以テ爲シタル事ニ對シテ起リタル請求ニ付其ノ請求ヲ滿足セシムル爲之ヲ執行スルコトヲ得ス

第百四十條 司法事務取扱ノ方法ニ對スル抗告殊ニ或ル事務ノ取扱方ニ對シ

又ハ取扱ノ延滯若ハ拒絶ニ對スル抗告ハ此ノ編ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ニ依リ之ヲ處分ス

第百四十一條 裁判所及檢事局ハ司法大臣又ハ監督權アル判事若ハ檢事ノ要求アルトキハ法律上ノ事項又ハ司法行政ニ關ル事項ニ付意見ヲ述フ

第百四十二條 司法官廳ニ對シテ起リタル民事ノ訴訟ニ於テハ其ノ訴訟ヲ受ケタル裁判所ノ檢事局ハ司法官廳ヲ代表ス

第百四十三條 此ノ編ニ掲ケタル前各條ノ規程ハ裁判上執務スル判事ノ裁判權ニ影響ヲ及ホシ又ハ之ヲ制限スルコトナシ

附則

第百四十四條 此ノ法律ノ施行ニ關ル規程竝ニ從來ノ法律ニシテ此ノ法律ニ抵觸スト雖モ當分ノ内仍ホ效力ヲ有セシムルモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

裁判所構成法中改正法律

（明治四十一年三月十三日法律第十號）

裁判所構成法中左ノ通改正ス

第五十八條中「三年間」ヲ「一年六月以上」ニ改ム

附則

本法ハ明治四十一年三月十九日ヨリ之ヲ施行ス

裁判所構成法中改正法律

（明治四十一年三月二十七日法律第三十號）

裁判所構成法中左ノ通改正ス

第十六條ノ一 區裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ第二以下ニ記載シタル罪ハ豫審ヲ經サルモノニ限ル

第一 拘留又ハ科料ニ該ル罪

第二 竊盜ノ罪

第三 竊盜及刑法第二百五十四條ノ罪ノ贓物ニ關スル罪

第四 刑法第百三十條、第百七十五條、第百八十五條乃至第百八十七條及第二百九條ノ罪竝ニ第百三十條ノ未遂罪

第五 一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓ヲ超過セサル罰金ニ該ル罪

二個以上ノ主刑中其ノ一個ヲ科スヘキ罪ニシテ其ノ刑前項第一又ハ第五ノ規定ニ適セサルモノアルトキハ區裁判所ハ其ノ裁判權ヲ有セス

第十六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ「第十六條ノ二」ヲ「第十六條ノ三」ニ改ム

第十六條ノ二 前條第一項第五ニ記載シタル罪ニ付テハ累犯又ハ併合罪トシテ處分スヘキ場合ト雖モ區裁判所其ノ裁判權ヲ有ス

第五十條第二號ヲ左ノ如ク改ム

第二 第一審ニシテ終審トシテ

刑法第七十三條、第七十五條及第七十七條乃至第七十九條ノ罪竝ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノノ豫審及裁判

附則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ニ提起シタル訴訟ハ本法ニ依リ他ノ裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノト雖モ受訴裁判所之ヲ裁判スヘシ

本法施行後重禁錮又ハ輕禁錮ニ處スヘキ罪ノ裁判權ニ付テハ重禁錮ヲ懲役ト看做シ輕禁錮ヲ禁錮ト看做ス

裁判所構成法施行條例

（明治二十三年三月十八日法律第二十二號）

朕裁判所構成法施行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

裁判所構成法施行條例

第一條 從來ノ治安裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル區裁判所トシ從來ノ始審裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所トシ又從來ノ控訴院大審院ハ裁判所構成法ニ定メタル控訴院大審院トス

第二條 始審裁判所從來ノ檢事局ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所ノ檢事局トス控訴院大審院ノ檢事局モ亦同シ

第三條 區裁判所ノ管轄區域ヲ爲ス町村ノ變更ハ之ヲ區裁判所管轄區域ニ及ホスモノトス

第四條 裁判所構成法實施前他ノ裁判所第一審トシテ受理シタル民事訴訟及刑事訴訟ニシテ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬シタルモノハ現在ノ儘相當ノ區裁判所ニ移ルモノトス既ニ爲シタル裁判ハ區裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五條 裁判所構成法ニ依リ地方裁判所ノ第二審ニ屬スヘキモ既ニ控訴院ニ於テ受理シタル事件ハ控訴院之ヲ裁判スヘシ又控訴院ノ管轄ニ屬スヘキモ既ニ大審院ニ於テ受理シタル民事刑事ノ上告ハ大審院之ヲ裁判スヘシ

第六條 裁判所構成法實施前重罪裁判所ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ地方裁判所ニ移ルモノトス既ニ爲シタル裁判ハ地方裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七條 裁判所構成法實施前始審裁判所ニ於テ受理シタル郡長區長戸長又ハ市長町長村長ニ對スル民事訴訟ハ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノト雖其ノ地方裁判所之ヲ裁判シ控訴院ニ於テ受理シタル官廳ニ對スル民事訴訟ハ其ノ控訴院之ヲ裁判スヘシ

第八條　裁判所構成法實施前高等法院ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ裁判所ニ移ルモノトス高等法院ニ於テ裁判スヘキ事件ヲ通常裁判所ニ於テ受理シタルモノモ亦同シ

第九條　明治十八年第三十一號布告違警罪即決例ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十條　明治十八年第十二號布告普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交涉ノ件處分法ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十一條　明治二十一年勅令第六十四號ハ仍效力ヲ有ス

區裁判所出張所ニ於テ判事差支アルトキハ裁判所書記ヲシテ登記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

北海道及島嶼ニシテ區裁判所遠隔ノ地方ニ於テ司法大臣ハ郡長町長又ハ村長ニ委任シテ登記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十二條　東京地方裁判所管內小笠原島及伊豆七島ニ於テ民事刑事ノ訴訟ニシテ區裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノ及非訟事件ハ裁判所設置マテ島吏之ヲ取扱フ但シ刑事訴訟ノ手續ハ便宜之ヲ取扱フコトヲ得

第十三條　沖繩縣ニ於テ民事刑事ノ訴訟及非訟事件ニシテ區裁判所及地方裁

判所ノ裁判權ニ屬スルモノハ裁判所設置マテ同縣官吏之ヲ取扱フ但シ控訴院ノ裁判權ニ屬スルモノハ長崎控訴院ノ管轄トス

第十四條　（四十一年法律第三十一號ヲ以テ本條削除）

第十五條　明治二十一年勅令第七十一號清國竝ニ朝鮮國駐在領事裁判規則ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十六條　裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官檢察官ハ同法第二編第一章ノ要件ヲ必要トセス

第十七條　裁判所構成法實施ノ際在職ノ書記ハ同法第二編第四章第八十九條ノ要件ヲ必要トセス

第十八條　裁判所構成法實施後三年間ハ司法大臣ハ試補實地修習ノ時間ヲ一年六箇月マテニ減縮スルコトヲ得

明治十七年太政官達第百二號判事登用規則及明治二十年勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則ニ依リ試補ト爲リタル者ハ第二回試驗ヲ要セスシテ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得

第十九條　裁判所構成法實施後一年間ハ司法大臣ハ同法第二編第二章第六十九條及第七十條ノ規程ニ拘ラス補職ヲ爲スコトヲ得

第二十條　三年以上裁判官又ハ檢察官ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上舊參事院議官又ハ議官補ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上法制局參事官ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上司法省高等官（會計局ノ高等官ヲ除ク）ノ職ヲ奉シタル者ハ裁判所構成法實施後一年間ハ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得

第二十一條　裁判所構成法第二編第二章第七十四條及第七十五條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル陸軍刑法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十一年四月九日

内閣總理大臣　侯爵　西園寺公望

陸軍大臣　子爵　寺内正毅

法律第四十六號

陸軍刑法

第一編　總則……一
第二編　罪……五
第一章　叛亂ノ罪……五
第二章　擅權ノ罪……八
第三章　辱職ノ罪……九
第四章　抗命ノ罪……一二
第五章　暴行脅迫ノ罪……一三
第六章　侮辱ノ罪……一七
第七章　逃亡ノ罪……一七
第八章　軍用物損壞ノ罪……一八
第九章　掠奪ノ罪……二〇
第十章　俘虜ニ關スル罪……二〇
第十一章　違令ノ罪……二一

陸軍刑法施行法……二七
陸軍治罪法……一
第一章　總則……一
第二章　軍法會議ノ構成……二
第三章　軍法會議ノ權限……六
第四章　陸軍檢察……八
第五章　審問……一二
第六章　判決……二〇
第七章　再審……二五
第八章　復權……二八
第九章　特赦……二八

陸軍刑法

第一編　總則

第一條　本法ハ陸軍軍人ニシテ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第二條　本法ハ陸軍軍人ニ非スト雖左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

一　第六十四條乃至第六十七條ノ罪及此等ノ罪ノ未遂罪

二　第七十四條ノ罪

三　第七十九條乃至第八十五條ノ罪

四　第八十六條乃至第八十九條ノ罪

五　第九十一條乃至第九十三條ノ罪及第九十一條第九十二條ノ未遂罪

六　第九十五條第一項、第九十六條、第九十七條第二項及第九十九條ノ罪

第三條　本法ハ前二條ニ記載シタル者帝國外ニ於テ罪ヲ犯シタルトキト雖之ヲ適用ス

第四條　帝國軍ノ占領地ニ於テ陸軍軍人刑法又ハ他ノ法令ノ罪ヲ犯シタルト

キハ之ヲ帝國內ニ於テ犯シタルモノト看做ス

陸軍軍人ニ非スト雖帝國臣民、從軍外國人及俘虜ノ犯シタルトキ亦前項ニ同シ

第五條 帝國外ニ在ル部隊ニ屬シ若ハ從フ者又ハ之ニ俘虜タル者其ノ部隊ノ所在地ニ於テ刑法又ハ他ノ法令ノ罪ヲ犯シタルトキ亦前條ニ同シ

第六條 陸軍ト共同作戰ニ從フ海軍軍人ニ對スル行爲ハ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル陸軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス

第七條 陸軍ト共同作戰ニ從フ外國ノ陸海軍ニ屬スル者ニ對スル行爲ハ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル陸軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス但シ其ノ外國ニ於テ同一ノ取扱ヲ爲スコトヲ保セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 陸軍軍人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ謂フ

一 陸軍ノ現役ニ在ル者但シ未タ入營セサル者及歸休兵ヲ除ク

二 召集中ノ在鄉軍人

三 召集ニ依ラス部隊ニ在リテ陸軍軍人ノ勤務ニ服スル在鄉軍人

四 前二號ニ記載シタル者ノ外陸軍ノ制服著用中又ハ現ニ服從上ノ義務履行中ノ在鄉軍人

五 志願ニ依リ國民軍隊ニ編入セラレ服務中ノ者

第九條 左ニ記載シタル者ハ陸軍軍人ニ準ス

一 陸軍所屬ノ學生、生徒

二 陸軍軍屬

三 陸軍ノ勤務ニ服スル海軍軍人

前項第一號ニ記載シタル者ノ中特ニ除外スヘキ者アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 陸軍將校相當官、陸軍准士官、海軍將校、同相當官、海軍候補生及海軍准士官ハ陸軍將校ニ準ス陸軍士官ノ候補者ニシテ士官ノ勤務ニ服スル者亦同シ

第十一條 陸軍士官ノ候補者ニシテ下士ノ階級ニ在リ士官ノ勤務ニ服セサル者ハ陸軍下士ニ準ス

第十二條 陸軍ノ兵役ニ在リテ官等、等級ヲ有セサル者ハ兵卒ニ準ス陸軍士官ノ候補者ニシテ兵卒ノ階級ニ在ル者亦同シ

第十三條 在鄉軍人ト稱スルハ陸軍ノ現役以外ノ役ニ在ル者、陸軍ノ現役ニ在リテ未タ入營セサル者、陸軍ノ歸休兵及退役陸軍將校、同相當官、准士官

ヲ謂フ

第十四條 陸軍軍屬ト稱スルハ陸軍文官、同待遇者及宣誓シテ陸軍ノ勤務ニ服スル者ヲ謂フ但シ豫備又ハ退職ノ文官ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 海軍軍人ト稱スルハ海軍刑法ニ於テ海軍軍人ト爲ス者ヲ謂フ

第十六條 上官ト稱スルハ命令關係アル陸軍軍人間ニ於テ命令權ヲ有スル者ヲ謂フ

命令關係ナキ者ノ間ニ於テハ官等、等級又ハ階級ノ上ナル者ハ之ヲ上官ニ準ス但シ兵卒ハ下士勤務上等兵ヲ除クノ外總テ同等トス

第十七條 司令官ト稱スルハ軍隊ノ司令ニ任スル陸軍軍人ヲ謂フ

第十八條 哨兵ト稱スルハ儀仗又ハ警戒ノ爲守地ニ在ル陸軍軍人ヲ謂フ

第十九條 部隊ト稱スルハ陸軍ノ軍隊、官衙、學校、特務機關及戰時ニ於ケル陸軍ノ特設機關ヲ謂フ

第二十條 軍中ト稱スルハ左ニ記載シタル部隊ニ在ル場合ヲ謂フ

一 戰時ノ體勢ヲ執リタル部隊但シ留守部隊、衛戍勤務ニ服スル後備又ハ國民諸隊、戰地以外ノ地ニ在ル輸送又ハ補給諸機關ニシテ對敵狀態ニ在ラサルモノヲ除ク

二 戰時ノ體勢ヲ執ラサルモ對敵狀態ニ在ル部隊

三 事變又ハ一地方ノ騷擾ニ際シ其ノ鎭定ニ從事スル部隊

第二十一條 陸軍ニ於テ死刑ヲ執行スルトキハ陸軍法衙ヲ管轄スル長官ノ定ムル場所ニ於テ銃殺ス

第二十二條 多衆共同ノ暴行ヲ鎭壓スル爲又ハ敵前ニ在ル部隊ノ急迫ニ臨ミ軍紀ヲ保持スル爲已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス必要ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十三條 前條ノ規定ハ刑法又ハ他ノ法令ノ罪ト爲ルヘキ行爲ニ亦之ヲ適用ス

第二十四條 本法及海軍刑法ニ於テ俱ニ罰スヘキ正條アリ且其ノ刑ニ輕重ナキトキハ陸軍軍人ニ準スル者ト雖海軍軍人ニ對シテハ海軍刑法ヲ適用ス

第二編 罪

第一章 叛亂ノ罪

第二十五條 黨ヲ結ヒ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁ハ死刑ニ處ス

二　謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三　附和隨行シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二十六條　反亂ヲ爲ス目的ヲ以テ黨ヲ結ヒ兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル物ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第二十七條　左ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

一　軍隊又ハ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其ノ他ノ物ヲ敵國ニ交付スルコト

二　敵國ノ爲ニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助スルコト

三　軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄スルコト

四　敵國ノ爲ニ嚮導ヲ爲シ又ハ地理ヲ指示スルコト

五　敵國ニ降ラシムル爲司令官ヲ强要スルコト

六　敵國ノ爲ニ俘虜ヲ奪取シ又ハ之ヲ逃走セシムルコト

第二十八條　敵國ヲ利スル爲左ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

一　要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其ノ他ノ物ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシムルコト

二　水陸ノ通路橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ軍隊、艦船ノ往來ノ妨害ヲ生セシムルコト

三　司令官軍隊ヲ率ヰテ守地若ハ配置ノ地ニ就カス又ハ其ノ地ヲ離ルルコト

四　隊兵ヲ解散シ又ハ其ノ潰走混亂ヲ誘起シ又ハ其ノ連絡集合ヲ妨害スルコト

五　兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ヲ缺乏セシムルコト

六　命令、通報若ハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ虛僞ノ命令、通報若ハ報告ヲ爲スコト

七　造言飛語シ又ハ敵前ニ於テ叫呼喧噪スルコト

第二十九條　前二條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第三十條　反亂者又ハ內亂者ヲ利スル爲前三條ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル

者ハ死刑、無期若ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三十一條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十二條 第二十五條乃至第三十條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三十三條 第二十五條又ハ第二十六條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者未タ事ヲ行ハサル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ免除ス

第三十四條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第二章 擅權ノ罪

第三十五條 司令官外國ニ對シ故ナク戰鬪ヲ開始シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十六條 司令官休戰又ハ媾和ノ告知ヲ受ケタル後故ナク戰鬪ヲ爲シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十七條 司令官權外ノ事ニ於テ已ムコトヲ得サル理由ナクシテ擅ニ軍隊ヲ進退シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十八條 命令ヲ待タス故ナク戰鬪ヲ爲シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十九條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三章 辱職ノ罪

第四十條 司令官其ノ盡スヘキ所ヲ盡サスシテ敵ニ降リ又ハ要塞ヲ敵ニ委シタルトキハ死刑ニ處ス

第四十一條 司令官野戰ノ時ニ在リテ隊兵ヲ率ヰ敵ニ降リタルトキハ其ノ盡スヘキ所ヲ盡シタル場合ト雖六月以下ノ禁錮ニ處ス

第四十二條 司令官敵前ニ於テ其ノ盡スヘキ所ヲ盡サスシテ隊兵ヲ率ヰ逃避シタルトキハ死刑ニ處ス

第四十三條 司令官軍隊ヲ率ヰ故ナク守地若ハ配置ノ地ニ就カス又ハ其ノ地ヲ離レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑ニ處ス

一 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ五年以上ノ有期禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十四條 司令官出兵ヲ要求スル權アル官憲ヨリ其ノ要求ヲ受ケ故ナク之ニ應セサルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十五條　將校部隊若ハ一部ノ兵員ヲ率ヰ又ハ之ニ屬シ輸送船舶ニ在リテ敵ノ艦船ニ遭遇シタル際其ノ盡スヘキ所ヲ盡サスシテ其ノ船舶ヲ退去シタルトキハ死刑、無期若ハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第四十六條　部下多衆共同シテ罪ヲ犯スニ當リ鎮定ノ方法ヲ盡ササル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十七條　哨兵故ナク守地ヲ離レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ死刑ニ處ス

二　軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十八條　哨兵睡眠又ハ酩酊シテ其ノ職務ヲ怠リタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十九條　衞兵、控兵、巡察、斥候其ノ他警戒又ハ傳令ノ勤務ニ服スル者故ナク勤務ノ場所若ハ隊伍ヲ離レタルトキ又ハ到ルヘキ場所ニ到ラサルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ禁錮ニ處ス

二　軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十條　故ナク規則ニ依ラスシテ哨兵ヲ交代セシメ其ノ他哨令ニ違反シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ一年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス

二　軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十一條　戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ斥候、巡察又ハ偵察ノ勤務ニ服スル者虛僞ノ報告ヲ爲シタルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス

戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ軍事ニ關スル命令、通報又ハ報告ノ傳達ヲ掌ル者其ノ命令、通報若ハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ故ナク之ヲ傳達セサルトキハ亦前項ニ同シ

第五十二條　軍事機密ノ圖書、物件ヲ保管スル者危急ノ時ニ當リ之ヲ敵ニ委セサル方法ヲ盡ササルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十三條　戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍

用ニ供スル物ノ運搬又ハ支給ヲ掌ル者故ナク之ヲ缺乏セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第五十四條 健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ配給シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第五十五條 從軍ヲ免レ又ハ危險ナル勤務ヲ避クル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第五十六條 第四十條、第四十二條、第四十三條、第四十五條、第四十七條、第四十九條、第五十一條及第五十三條乃至第五十五條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四章 抗命ノ罪

第五十七條 上官ノ命令ニ反抗シ又ハ之ニ服從セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ禁錮ニ處ス

二 軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ一年以上七年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十八條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二 軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ首魁ハ無期又ハ五年以上ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ三年以上十年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十九條 暴行ヲ爲スニ當リ上官ノ制止ニ從ハサル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第五章 暴行脅迫ノ罪

第六十條 上官ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十一條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ無期若ハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ五年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十二條　上官ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用ヰテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ死刑、無期若ハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ無期若ハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十三條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ死刑ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十四條　哨兵ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十五條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十六條　哨兵ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用ヰテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十七條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ死刑、無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十八條　上官又ハ哨兵以外ノ陸軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ首魁ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十九條 上官又ハ哨兵以外ノ陸軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用ヰテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ首魁ハ無期若ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十一條 職權ヲ濫用シテ陵虐ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十二條 第六十條乃至第七十條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第六章 侮辱ノ罪

第七十三條 上官ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

文書、圖畫若ハ偶像ヲ公示シ又ハ演說ヲ爲シ其ノ他公然ノ方法ヲ以テ上官ヲ侮辱シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十四條 哨兵ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七章 逃亡ノ罪

第七十五條 故ナク職役ヲ離レ又ハ職役ニ就カサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ三日ヲ過キタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ニ於テ六日ヲ過キタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ

處ス

第七十六條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑、無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ三日ヲ過キタルトキハ首魁ハ五年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ニ於テ六日ヲ過キタルトキハ首魁ハ一年以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十七條　敵ニ奔リタル者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

第七十八條　第七十五條第一號、第七十六條第一號及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八章　軍用物損壞ノ罪

第七十九條　陸軍ノ工場、船舶、戰鬪ノ用ニ供スル建造物、汽車、電車若ハ橋梁又ハ陸軍ノ軍用ニ供スル物ヲ貯藏スル倉庫ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上懲役ニ處ス

第八十條　露積シタル兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他陸軍ノ軍用ニ供スル物ヲ燒燬シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　戰時、軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

第八十一條　火藥、汽罐其ノ他激發スヘキ物ヲ破裂セシメテ前二條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ燒燬ノ例ニ同シ

第八十二條　第七十九條ニ記載シタル物又ハ陸軍戰鬪ノ用ニ供スル鐵道、電線若ハ水陸ノ通路ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

第八十三條　兵器、彈藥、糧食、被服、馬匹其ノ他陸軍ノ軍用ニ供スル物ヲ毀棄又ハ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第八十四條　第七十九條乃至第八十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十五條　本章ノ規定ハ陸軍ト共同作戰ニ從フ外國陸海軍ノ軍用物ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第九章　掠奪ノ罪

第八十六條　戰地又ハ帝國軍ノ占領地ニ於テ住民ノ財物ヲ掠奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯スニ當リ婦女ヲ强姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第八十七條　戰場ニ於テ戰死者又ハ戰傷病者ノ衣服其ノ他ノ財物ヲ褫奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十八條　前二條ノ罪ヲ犯ス者人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十九條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十章　俘虜ニ關スル罪

第九十條　俘虜ヲ看守又ハ護送スル者其ノ俘虜ヲ逃走セシメタルトキハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十一條　俘虜ヲ逃走セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

俘虜ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其ノ他逃走ヲ容易ナラシムヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第九十二條　俘虜ヲ奪取シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十三條　逃走シタル俘虜ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十四條　第九十條乃至第九十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十一章　違令ノ罪

第九十五條　哨兵ヲ欺キテ哨所ヲ通過シ又ハ哨兵ノ制止ニ背キタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ一年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス

二　軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ外哨兵ニ對シ哨令ヲ犯シタル者亦前項ニ同シ

第九十六條 在鄉軍人故ナク召集ノ期限ニ後レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 戰時ニ際シ又ハ事變ノ爲召集ヲ受ケタル場合ニ於テ五日ヲ過キタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ニ於テ十日ヲ過キタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十七條 兵役ヲ免ルル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ、身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

在鄉軍人召集ヲ免ルル目的ヲ以テ前項ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同シ

第九十八條 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ軍事ニ關スル虛僞ノ命令、通報又ハ報告ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十九條 戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關シ造言飛語ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第百條 禮砲、號砲其ノ他空包ヲ發スヘキ場合ニ於テ彈丸、瓦石其ノ他ノ物ヲ裝塡シテ發シタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第百一條 哨兵又ハ衛兵故ナク銃砲ヲ發シタルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第百二條 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ急呼ノ號報アリタル場合ニ故ナク來會セサル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第百三條 政治ニ關シ上書、建白其ノ他請願ヲ爲シ又ハ演說若ハ文書ヲ以テ意見ヲ公ニシタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第百四條 服從ノ義務ニ違フヘキ事ヲ目的トシテ黨ヲ結ヒタルトキハ首魁ハ六月以上五年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十四年第六十九號布告陸軍刑法ハ之ヲ廢止ス

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル陸軍刑法施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御　名　御　璽

明治四十一年四月九日

内閣總理大臣　侯爵　西園寺公望

陸軍大臣　子爵　寺内正毅

法律第四十七號

陸軍刑法施行法

第一條　本法ニ於テ舊陸軍刑法ト稱スルハ明治十四年第六十九號布告陸軍刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ陸軍刑法施行前ニ施行シタル法律及勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條　陸軍刑法施行前ニ舊陸軍刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ陸軍刑法ニ定メタル主刑ト舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其ノ輕重ヲ定ム

陸軍刑法ニ定メタル刑	舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ノ刑
死刑	死刑
無期懲役	無期徒刑
無期禁錮	無期流刑
有期懲役	有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮
有期禁錮	有期流刑、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮

第三條　刑法施行法第三條ノ規定ハ前條ニ定メタル刑ノ對照ニ之ヲ準用ス

第四條　刑法第六條ニ依リ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ剝奪公權、剝官、停止公權、監視又ハ罰金ヲ附加スヘキトキト雖之ヲ附加セス

前項ノ場合ニ於テハ將校ニ非スシテ官職ヲ有スル者將校ニ在リテ剝官ヲ附加スル刑ニ該ルトキト雖其ノ官職ヲ失ハス

第五條　陸軍刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付陸軍刑法施行ノ前又ハ後ニ確定裁判アリタル後陸軍刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

一　確定裁判アリタル罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖陸軍刑法ニ於テハ其ノ罪ト餘罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

二　確定裁判アリタル罪ニ陸軍刑法ヲ適用シタルトキト雖舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其ノ罪ト餘罪トニ付數罪俱發ニ關スル規定ニ依ル

第六條　左ニ記載シタル者陸軍刑法施行前更ニ陸軍刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル舊陸軍刑法ノ罪ヲ犯シ陸軍刑法施行後其ノ罪ニ付裁判ヲ爲ストキハ陸軍刑法ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一　舊陸軍刑法ニ依リ陸軍刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者

二　舊陸軍刑法ニ依リ陸軍刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其ノ執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第七條　陸軍刑法施行前ニ犯シタル一罪ト陸軍刑法施行後ニ犯シタル陸軍刑法ノ一罪又ハ數罪トニ付同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ陸軍刑法施行前ノ罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スヘキトキト雖其ノ罪ト陸軍刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第八條　陸軍刑法施行前ニ犯シタル數罪ト陸軍刑法施行後ニ犯シタル陸軍刑法ノ一罪又ハ數罪トニ付同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ陸軍刑法施行前ノ罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スヘキトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一ノ重キ罪ト陸軍刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ陸軍刑法施行前ノ罪ニ陸軍刑法ヲ適用スヘキトキハ其ノ

數罪ト陸軍刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第九條 陸軍刑法施行後ニ犯シタル陸軍刑法ノ罪ニ付確定裁判アリタル後陸軍刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ餘罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スヘキトキト雖確定裁判アリタル罪ト餘罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條 陸軍刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付陸軍刑法施行後確定裁判アリタル後陸軍刑法施行後ニ犯シタル陸軍刑法ノ罪タル餘罪ニ付裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖其ノ罪ト餘罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條 陸軍刑法ノ罪ト刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ノ罪ト併合罪タルヘキ場合ニ於テハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ノ罪ヲ陸軍刑法ノ罪ト看做シ第三條、第五條及第七條乃至第十條ノ規定ヲ適用ス

第十二條 第六條第一項各號ニ記載シタル者陸軍刑法施行後有期懲役ニ該ル陸軍刑法ノ罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス
第六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 陸軍刑法施行後ハ舊陸軍刑法又ハ海陸軍刑律ノ刑ニ處セラレタル者ト雖刑ノ執行、假出獄及時效ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但シ死刑ニ付テハ陸軍ニ於テ之ヲ執行スル場合ニ限リ陸軍刑法ノ規定ヲ準用ス他ノ法律ニ依リ處セラレタル死刑ニ付亦同シ
前項ノ場合ニ於テハ第二條及明治十五年第四號布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲スヘシ
舊陸軍刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ陸軍刑法施行前ニ於ケル時效期間ノ起算及時效ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

第十四條 陸軍刑法施行後ハ他ノ法律ニ依リ處セラレタル罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニハ軍法會議ニ於テハ理事其ノ言渡ヲ爲スヘシ

第十五條 陸軍刑法施行後ハ刑法第六條ニ依リ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ノ刑ニ處スヘキ者ト雖刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス
前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲スヘシ

第十六條 陸軍刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ陸軍刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

第十七條　剝奪公權、停止公權及監視ノ言渡ハ陸軍刑法施行ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ

第十八條　人ノ資格其ノ他ノ事項ニ關シ舊陸軍刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ揭ケタル他ノ法律ノ規定ハ陸軍刑法施行ノ爲變更セラルルコトナシ

第十九條　刑法施行法第二十九條及第三十條ノ規定ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ陸軍刑法ノ罪ニ之ヲ準用ス

第二十條　刑法施行法第三十三條乃至第三十六條ノ規定ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ陸軍刑法ニ定メタル刑又ハ舊陸軍刑法ノ刑ニ處セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第二十一條　陸軍刑法ニ依リ六年未滿ノ懲役又ハ一年以上六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊陸軍刑法ノ剝官ヲ附加セラレ又ハ之ヲ附加スヘキ刑ニ處セラレタル者ト看做ス舊陸軍刑法ノ剝官ヲ附加スヘキ刑ニ處セラレタル者ニ付亦同シ

第二十二條　他ノ法律中舊陸軍刑法第二十八條、第三十條及第三十一條ノ規定アル爲人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケサリシ場合ニ付テハ舊陸軍刑法第二十八條、第三十條及第三十一條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ陸軍刑法施行

前ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十三條　舊陸軍刑法ト刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令トノ關係ニ付テハ舊陸軍刑法ヲ舊刑法ト看做シ刑法施行法第二條、第三條、第五條、第六條及第八條乃至第十一條ノ規定ヲ適用ス但シ剝官ニ關シテハ本法第四條ノ例ニ依ル

第二十四條　陸軍治罪法ニ於テ軍人ト稱スルハ陸軍刑法第八條第一號乃至第三號、第五號及第九條第一項第一號、第二號ニ記載シタル者ヲ謂ヒ海軍軍人ト稱スルハ海軍刑法第八條第一號、第二號及第九條第一項第一號、第二號ニ記載シタル者ヲ謂フ

第二十五條　刑事訴訟法第八條ノ規定ハ軍法會議ニ於テ審判スヘキ事件ニ之ヲ準用ス

第二十六條　陸軍治罪法中復權及特赦ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

第二十七條　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ爲シタル軍法會議ニ於テ判決ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條　軍法會議ニ於テハ刑ノ執行猶豫ハ判決ヲ以テ之ヲ爲シ刑ノ言渡

ト同時ニ之ヲ言渡スヘシ

第二十九條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ヲ管轄スル軍法會議又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所屬部隊ノ軍法會議ニ於テ判決ヲ以テ之ヲ取消シ其ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三十條　前三條ノ判決及其ノ言渡ニ付テハ陸軍治罪法中判決ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十一條　軍法會議ニ於テハ證人、鑑定人及通事ノ日當、旅費其他ノ給與ニ關シ刑法施行法第六十三條乃至第六十六條ノ規定ヲ準用ス但シ豫審判事、受託判事又ハ裁判所ノ行フヘキ職務ハ理事之ヲ行フ

附則

本法ハ陸軍刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍治罪法

（明治二十一年十月法律第二號）

第一章　總則

第一條　軍人ノ犯シタル重罪輕罪ノ審判及違警罪ノ正式裁判ハ軍法會議ニ於テ之ヲ爲ス

陸軍官署若クハ軍人ノ損害ニ係ル本案附帶ノ私訴アルトキハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二條　軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其裁判宣告ヲ爲ストキハ軍人ニ限リ之ヲ許ス

第三條　軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ記載シタル者ヲ謂フ

海軍軍人ト稱スルハ海軍刑法第五十條第五十一條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第四條　長官ト稱スルハ軍團長師團長軍法會議ヲ管轄スル旅團長及ヒ合圍ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條　親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ニ記載シタル者ヲ謂

フ

第六條 普通治罪法第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十八條第三十九條第百條第百一條第百三十三條第三項第百四十六條第百五十六條第二百六十一條第一項ハ此治罪法ニ於テ之ヲ適用ス

第七條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第八條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官審判ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二章 軍法會議ノ構成

第九條 各師管ニハ軍法會議一箇若クハ數箇ヲ設ク

東京ニ高等軍法會議一箇ヲ設ク

軍中ニ於テハ軍團師團混成旅團ニ軍法會議ヲ設ケ合圍ノ地ニモ亦軍法議ヲ設ク

第十條 軍法會議ハ判士長判士理事若クハ理事試補及ヒ錄事ヲ以テ構成ス

第十一條 判士長判士ハ高等軍法會議ニ於テハ第一表ニ據リ他ノ軍法會議ニ於テハ第二表ニ據リ將校ヲ以テ之ニ充ツ軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ判士二名ヲ減スルコトヲ得

第一表

士	被告人
判士長 一名	陸海軍下士以下ノ軍人 四名
佐官 一名	陸軍少尉及ヒ同等ノ陸海軍人並ニ准士官 二名
佐官 一名	陸軍中尉及ヒ同等ノ陸海軍人 二名
大佐若クハ中佐 一名	陸軍大尉及ヒ同等ノ陸海軍人 二名
大佐 一名	陸軍少佐及ヒ同等ノ陸海軍人 二名
少將 一名	陸軍中佐及ヒ同等ノ陸海軍人 二名
中將 一名	陸軍大佐及ヒ同等ノ陸海軍人 二名
大將 一名	陸軍少將及ヒ同等ノ陸海軍人 二名
中將 一名	陸軍中將及ヒ同等ノ陸海軍人 一名
大將 一名	陸軍中將及ヒ同等ノ陸海軍人 三名
大將 一名	陸海軍大將 二名

第二表

判士長	判士	被告人
中將 一名	大佐 少將 二名	陸軍大佐及ヒ同等ノ陸海軍人 二名
少將 一名	中佐 大佐 二名	陸軍中佐及ヒ同等ノ陸海軍人 二名
大佐 一名	少佐 中佐 二名	陸軍少佐及ヒ同等ノ陸海軍人 二名
大佐若クハ中佐 一名	大尉 少佐 二名	陸軍大尉及ヒ同等ノ陸海軍人 二名
佐官 一名	中尉 大尉 二名	陸軍中尉及ヒ同等ノ陸海軍人 二名
佐官 一名	少尉 大尉若クハ中尉 二名	陸軍少尉及ヒ同等ノ陸海軍人並ニ准士官 二名
佐官 一名	尉官 四名	陸海軍下士以下ノ軍人

第十二條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ストキハ陸軍大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

佐官ヲ以テ判士長判士ト爲シ尉官ヲ以テ判士ト爲ストキハ高等軍法會議ニ於テハ陸軍大臣之ヲ命シ師管旅管ノ軍法會議ニ於テハ師團長其部下中ヨリ之ヲ命ス

師管旅管ニ於テ部下ニ非サル者ヲ以テ判士長判士ト爲スヲ要スルトキハ師

團長ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ命ス

第十三條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官其部下ノ將校中ヨリ判士長判士ヲ命ス

第十四條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官專任判士ヲ命スルコトヲ得

又部下ノ下士ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

合圍ノ地ニ於テハ長官其地所在ノ高等官ヲ以テ判士若クハ理事ニ充テ判任官ヲ以テ錄事ニ充ルコトヲ得

第十五條 判士長判士理事左ニ記載シタル者ナルトキハ其審判ニ從事スルコトヲ得ス

一 被告人被害者及其配偶者ノ親屬

二 被告人被害者ノ後見人

三 告發人被害者及ヒ證據ヲ陳述シタル者

第十六條 原裁判ニ從事シタル判士長判士理事ハ再議及ヒ再審ノ裁判ニ列スルコトヲ得ス但闕席裁判ニ對スル再審ニ於テハ此限ニ在ラス

第十七條 第十二條第三項ノ場合ニ於テハ陸軍大臣ハ判士長判士ヲ命セスシテ被告人ヲ他ノ師管旅管ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章　軍法會議ノ權限

第十八條　師管旅管ノ軍法會議ハ其師管旅管ノ所管地方ヲ以テ管轄ト爲シ所屬軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第十九條　軍人管轄地外ニ於テ罪ヲ犯シタルトキハ其他ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得

第二十條　高等軍法會議ハ將官若クハ其同等軍人ノ犯罪ヲ審判シ及ヒ再審ノ審判ヲ爲ス但他ノ軍法會議ニ於テ爲シタル闕席裁判ニ對スル再審ハ此限ニ在ラス

第二十一條　軍團師團混成旅團ノ軍法會議ハ其團所屬佐官以下ノ軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第二十二條　合圍ノ地ノ軍法會議ハ總テ其地所在佐官以下ノ軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第二十三條　臨戰若クハ合圍ノ地ノ軍法會議ニ於テハ從軍常人ノ犯罪ヲ審判シ又何人ト雖モ陸軍刑法ヲ以テ論スヘキ罪ヲ犯シタルトキハ其審判ヲ爲ス可シ

合圍ノ地ノ特別裁判權ハ戒嚴令ノ定ムル所ニ依ル

第二十四條　軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テ專任判士ヲ以テ構成シタル軍法會議ハ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ノ外被告人ノ身分ニ拘ハラス其犯罪ヲ審判スルコトヲ得

第二十五條　俘虜降人ノ犯罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十六條　軍人任官就役後ノ犯罪ト雖モ在官在役中ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス在官在役中ノ犯罪ト雖モ免官免役ノ後告訴告發アリタルトキハ普通裁判所ノ裁判ニ附ス

第二十七條　軍人二人以上共ニ罪ヲ犯シ若クハ附帶犯ニシテ各其管轄ヲ異ニスルトキハ先ニ審判ニ着手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判シ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ト共犯若クハ附帶犯ニ係ルトキハ高等軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス海軍軍人ト共犯若クハ附帶犯ニ係ルトキハ亦同シ

第二十八條　重罪輕罪ト俱ニ發シ若クハ重罪輕罪ト附帶シ若クハ重罪輕罪トシテ審判ニ著手シタル違警罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十九條　軍中若クハ合圍ノ地ノ軍法會議ヲ廢スルトキハ其軍法會議ニ於テ管轄シタル被告事件ハ通常ノ權限ニ照シ管轄軍法會議ヲ以テ其管轄ト爲

ス

第四章　陸軍檢察

第三十條　陸軍檢察ハ陸軍ニ關スル犯罪ヲ搜査シ證憑ヲ收集ス

第三十一條　陸軍檢察官ハ左ニ記載シタル諸官ヲ以テ之ニ充ツ

一　憲兵ノ將校下士
二　師團副官
三　旅團副官
四　警備隊司令官

第三十二條　各所管ノ長官團隊ノ長タル將校大隊區司令官監獄長衞兵司令ハ各其管スル所ノ事ニ關シ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ檢察ノ處分ヲ爲シ若クハ陸軍檢察官ニ其處分ヲ委ス可シ

理事職務ヲ行フノ際現行犯アルコトヲ知リタルトキハ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲ス可シ

第三十三條　何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令

官監獄長衞兵司令又ハ豫審判事檢事司法警察官ニ之ヲ告訴スルコトヲ得

第三十四條　何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ告發スルコトヲ得

第三十五條　陸軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ第三十三條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ告發ス可シ

第三十六條　陸軍檢察官憲兵卒司法警察官巡査ハ軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ直ニ之ヲ逮捕ス可シ

第三十七條　何人ヲ論セス軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルトキハ直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得其逮捕シタル者ハ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衞兵司令又ハ司法警察官若クハ憲兵卒巡査ニ之ヲ交付ス可シ

第三十八條　憲兵卒巡査現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ引致ス可シ

第三十九條　陸軍檢察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲シ調書ヲ作ル可シ

第三十二條ニ記載シタル諸官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタ

ルトキハ前項ノ處分ヲ爲シ又ハ其處分ヲ陸軍檢察官ニ委スルコトヲ得

第四十條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其檢證ノ處分ヲ爲ストキハ公力ヲ用フルコトヲ得

第四十一條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官軍人ト共犯ノ常人アルコトヲ知リタルトキハ前數條ニ照シ其處分ヲ爲ス可シ

第四十二條 司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲シ調書ヲ作リ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ送致ス可シ

第四十三條 豫審判事檢事司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ交付ス可シ

第四十四條 告訴人告發人ハ其願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更センコトヲ請求スルコトヲ得

第四十五條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官檢察ノ處分ヲ爲シタルトキハ被告事件ニ證憑物件ヲ添ヘ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 重罪輕罪ト認ムルトキハ之ヲ長官ニ具申シ違警罪ト認ムルトキハ其事

件ヲ管理ス可キ官司ニ交付ス可シ

二 裁判管轄ニ非サル者軍人ナルトキハ其事件ヲ管轄ス可キ軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ海軍軍人ナルトキハ海軍軍法會議ノ主理ニ送致シ常人ナルトキハ檢察處分ヲ爲シタル地ノ檢事ニ送致ス可シ但軍人ト共犯ノ常人ナルトキハ長官ニ具申ス可シ

三 高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ナルトキハ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第五章 審問

第四十六條 陸軍大臣又ハ長官被告事件ノ具申ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 其犯罪輕罪以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ審問若クハ審判ノ命令ヲ下シ禁錮以下ノ刑ニ該ル可キモノニシテ審問ヲ要セスト認ムルモノ及ヒ違警罪ノ正式裁判ニ附ス可キモノハ直ニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

二 審問若クハ審判若クハ判決ノ命令ヲ下シタルトキハ其事件ヲ理事ニ下付ス可シ

第四十七條 理事審問ヲ爲ストキハ先ツ召喚狀ヲ發ス可シ

被告人出廷シタルトキハ即日之ヲ訊問ス可シ

第四十八條 理事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第四十九條 理事ハ重罪ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ナルトキ又ハ輕罪以下ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ニシテ罪證ヲ煙滅シ若クハ逃走ノ恐レアルトキ又ハ未遂罪ヲ犯シ其目的ヲ遂ケ若クハ脅迫罪ヲ犯シ其手段ヲ實行スルノ恐レアルトキハ直ニ勾引狀ヲ發ス可シ

第五十條 勾引狀ハ管轄地外ト雖モ之ヲ執行スルコトヲ得

第五十一條 理事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ陸軍檢察官若クハ理事豫審判事司法警察官ニ訊問ヲ囑託スルコトヲ得又陸軍檢察官理事司法警察官ニ召喚狀ノ送達勾引狀ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得

第五十二條 勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時內ニ之ヲ訊問ス可シ四十八時ヲ經過シ仍ホ留置ヲ要スルトキハ收禁狀ヲ發ス可シ

第五十三條 理事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ理事陸軍檢察官若クハ豫審判事司法警察官ニ訊問ノ條件ヲ明示シテ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十四條 理事ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ陸軍檢察官及ヒ各控訴院ノ檢事長ニ人相書ヲ送リテ其逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第五十五條 理事ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト認メタルトキハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得

收禁狀ヲ發シタル後被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非ス又ハ收禁ヲ要セサルモノト認メタルトキハ收禁ヲ取消ス可シ

第五十六條 勾引狀收禁狀ハ憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム可シ但憲兵ヲ置カサル地ニ於テハ衛兵ヲシテ之ヲ執行セシム可シ

勾引狀ハ受ク可キ被告人營內若クハ隊伍ニ在ルトキハ隊長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ

被告人海軍艦船營內若クハ隊伍ニ在ルトキハ艦船營長隊伍ノ長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ

憲兵卒衛兵匂引狀ヲ執行スルニ當リ被告人其家宅若クハ他人ノ家ニ逃匿シタリト認メタルトキハ其地ノ戸長若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ之ヲ捜索シ其調書ヲ作リ立會人ト共ニ署名捺印ス可シ若シ立會ヲ求ムルニ暇アラス若クハ之ヲ得ル能ハサルトキハ其立會ナクシテ捜索ヲ爲スコトヲ得

第五十七條　理事ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅捜索物件押收處分ヲ爲スコトヲ得

若シ其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ陸軍檢察官若クハ理事豫審判事司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十八條　理事ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告事件ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコトヲ得若シ其場所遠隔ノ地ト在ルトキハ前條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十九條　理事ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得

證人皇族若クハ勅任官ナルトキハ理事其所在ニ就キ陳述ヲ聽ク可シ

證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ理事其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

證人遠隔ノ地ニ在ルトキハ第五十七條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十條　左ニ記載シタル者ハ證人ト爲スコトヲ得ス但事實參考ノ爲メ其陳述ヲ聽クコトヲ得

一　被害者
二　被害者及ヒ被告人ノ親屬
三　被害者及ヒ被告人ノ後見又ハ其後見ヲ受クル者
四　被害者及ヒ被告人ノ雇人
五　現ニ陳述ヲ爲ス可キ事件ニシテ曾テ訴ヲ受ケ證憑充分ナラサルニ因リ免訴ノ宣告ヲ受ケタル者
六　重罪事件ノ爲メ軍法會議ノ判決ニ判決ニ附セラレタル者若クハ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者及ヒ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ノ爲メ軍法會議又ハ普通裁判所ノ判決ニ附セラレタル者
七　公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ公權ヲ停止セラレタル者
八　十六歳未滿ノ者
九　知覺精神ノ不充分ナル者

十 瘖啞者

第六十一條 理事被告人證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲ストキハ錄事之ニ立會ヒ調書ヲ作リ訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人證人事實參考人ニ讀示ス可シ

理事ハ其讀示シタル所其陳述ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ陳述者ヲシテ之ニ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ記セシム可シ

急遽ノ際若クハ事故アリテ錄事立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ其立會ナクシテ本條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 理事犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要スルトキハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ但シ第六十條ニ記載シタル者ハ鑑定人ト爲スコトヲ得ス若シ急遽ノ際正當ノ鑑定人ヲ得ルコト能ハサルトキハ參考ノ爲メ之ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

鑑定ヲ爲シタル者ハ鑑定書ヲ作リ其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ若シ結果ヲ得ルコト能ハサルトキハ其推測スル所ヲ記シ之ニ署名

捺印ス可シ

第六十三條 理事ハ證人通事鑑定人ヲシテ正實ニ陳述通譯鑑定ヲ爲ス可キコトヲ宣誓セシム可シ

理事ハ證人通事鑑定人ニ宣誓書ヲ讀示シ之ニ署名捺印セシム可シ若シ署名スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ附記セシム可シ

宣誓書ハ訴訟書類ニ添ヘ置ク可シ

第六十四條 理事ハ證人鑑定人通事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命シタル者疾病其他正當ノ事故ヲ證明セスシテ呼出ニ應セサルトキハ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ若シ再度ノ呼出ニ應セサルトキハ更ニ二倍ノ罰金ヲ科ス可シ若シ五日內ニ正當ノ事故アリテ出廷スルコト能ハサリシコトヲ證明シタルトキハ罰金ノ宣告ヲ取消ス可シ

前項ノ場合ニ於テ證人事實參考人ニ對シテハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第六十五條 理事ハ證人鑑定人宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ陳述鑑定ヲ肯セサルトキハ證人ハ普通刑法第百八十條ニ依リ鑑定人ハ同法第百七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ

證人トシテ呼出シタル醫師藥商穩婆代言人辯護人公證人神官僧侶其身分職

業ニ關スル秘密ノ事件ニ因リ委託ヲ受ケタル事ニ關シ陳述ヲ肯セサルトキハ前項ノ例ニ在ラス

第六十六條 理事ハ通事宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ通譯ヲ肯セサルトキ又ハ事實參考ノ爲メ陳述鑑定ヲ命セラレタル者之ヲ肯セサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第六十七條 理事ハ證人事實參考人ノ陳述ヲ確實ナラシムル爲メ犯所若クハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

證人事實參考人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第六十四條ニ照シ罰金ヲ科ス可シ

第六十八條 證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者ニ科シタル罰金ヲ納完セシメ若クハ罰金ヲ禁錮ニ換フルノ處分ハ普通刑法第二十七條ニ依リ理事之ヲ爲ス可シ

第六十九條 理事ハ被告事件ニ關スル調書說明ノ爲メ其調書ヲ作リタル陸軍檢察官司法警察官其他ノ官吏ヲ呼出スコトヲ得

第七十條 理事審問ニ於テ共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺舉シタルトキハ直ニ之ヲ審問ス可シ但其共犯者附帶犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ之ヲ

長官ニ具申ス可シ

第七十一條 軍人ト共犯セシ常人ハ審問ヲ終リタル後證憑物件ヲ添ヘ其共犯事件ヲ管轄スル軍法會議所在ノ地ノ檢事ニ送致ス可シ

第七十二條 理事ハ審問中被告人ヲ其親屬故舊ニ責付スルコトヲ得但營內居住ノ者ハ責付スルノ限ニ在ラス

第七十三條 理事審判若クハ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ノ審問ヲ終リ若クハ判決ノ命令ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 審判若クハ判決ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テハ意見書ヲ作リ訴訟書類ト共ニ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ定メ判士長判士ニ通報ス可シ

二 裁判管轄ニ非ス若クハ免訴ト爲ス可キ事件ニ於テハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テモ亦同シ

第七十四條 陸軍大臣又ハ長官審問ノ命令ヲ下シタル事件ノ具申ヲ受ケ其事件有罪ナリト認メタルトキハ更ニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

第六章　判決

第七十五條　軍法會議ハ判士長判士理事錄事列席シテ之ヲ開ク可シ

第七十六條　判士長ハ被告人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ

理事其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第七十七條　判士長ハ開廷ヨリ判決終結ニ至ルマテノ間必要ト認ムルトキハ令狀ヲ發スルコトヲ得

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得

法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アルトキハ判士長檢證ノ處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其處分ヲ爲サシメ調書及ヒ證憑文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ但其犯人被告人ナルトキハ本案事件ト共ニ直ニ判決ヲ爲ス可シ

第七十八條　判士長ハ法廷其他ノ場合ニ於テ證人鑑定人通事ヲ要シ若クハ調書說明ノ爲メ官吏ノ呼出ヲ要スルトキハ第五章ノ例ニ依ル

第七十九條　證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者疾病其他正當ノ事故ナクシテ呼出ニ應セサルトキハ理事ノ意見ヲ聽キ軍法會議ニ於テ直ニ左ノ罰金科料ヲ科ス可シ

一　違警罪事件ニ於テハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料

二　輕罪以上ノ事件ニ於テハ二圓以上二十圓以下ノ罰金

第八十條　判士長ハ證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ

理事其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第八十一條　判決ノ爲メ更ニ檢證ノ處分ヲ要スルコトアルトキハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺舉シタルトキハ直ニ其判決ヲ爲シ若クハ理事ニ移シテ其審問ヲ爲サシム可シ但其共犯者附帶犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ判士長ヨリ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

第八十二條　被告人ノ訊問終リタルトキハ判士長更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス可キコトナキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタル旨ヲ告ケ被告人ヲ退廷セシメ其判

決ヲ爲ス可シ

第八十三條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ開廷ノ日時ニ出廷セス若クハ其逃走ニ由リ召換狀ヲ送達スルコトヲ得サルトキ及ヒ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人召換狀ヲ受ケ開廷ノ日時ニ出廷セサルトキハ闕席裁判ヲ爲スコトヲ得

第八十四條 數人共犯ノ判決ヲ爲ストキハ被告人中闕席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ其判決ヲ爲スコトヲ得

第八十五條 理事ハ會議席ニ列シ意見書ノ趣旨ヲ說明ス可シ

會議ノ判決其意見ト合ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ判決書ニ添フルコトヲ得

其判決法律ニ違ヒ再議スヘキ理由アリト認ムルトキハ其判決ノ命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

第八十六條 判決書ハ理事左ノ條件ニ照シテ之ヲ作リ判士長判士錄事ト共ニ署名捺印シ訴訟文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

一 判決ノ理由

二 有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證憑及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條

三 無罪ノ判決書ニハ被告人ノ死去セシコト若クハ人違ナリシコト若クハ被告事件罪トナラサルコト若クハ犯罪ノ證憑備ラサルコト

四 免訴ノ判決書ニハ公訴ノ期滿免除ト爲リタルコト若クハ大赦アリタルコト若クハ確定裁判ヲ經タルコト若クハ法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト

五 管轄違ノ判決書ニハ其旨

六 私訴ノ裁判アリタルトキハ其旨

七 被告人ノ官位勳爵隊號職名氏名族籍年齡住所判決ノ年月日

第八十七條 左ニ記載シタルモノハ訴訟書類ヲ添ヘ長官ヨリ陸軍大臣ニ具申シ其他ハ長官ニ於テ裁判宣告ノ命令ヲ下ス可シ

一 死刑ニ該リタルトキ

二 佐官及ヒ其同等軍人重罪輕罪ノ刑ニ該リタルトキ

二 尉官及ヒ其同等軍人重罪ノ刑ニ該リタルトキ

第八十八條 陸軍大臣前條ノ具申ヲ受ケタルトキ又ハ高等軍法會議ノ判決將官及ヒ其同等軍人ノ重罪輕罪ニ該リ若クハ前條ニ記載シタルモノニ該リタルモノハ意見書ヲ附シ上奏ス可シ

其裁可アリタルトキ高等軍法會議判決ニ係ルモノハ裁判宣告ノ命令ヲ下シ他ノ軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ長官ニ下付シ長官ヲシテ裁判宣告ノ命令ヲ下サシム可シ

第八十九條　軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官第八十七條ノ例ニ依ラス直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下スコトヲ得

第九十條　長官軍法會議ノ判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシメ直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下ス權ナキモノハ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第九十一條　陸軍大臣高等軍法會議若クハ長官ヨリ具申シタル判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシム可シ

第九十二條　裁判宣告ノ命令アリタルトキハ判士長判士理事錄事列席シ被告人ヲ出廷セシメ判士長其宣告ヲ爲ス可シ

闕席裁判ノ宣告ハ被告人闕席ノママ之ヲ爲ス可シ禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人對審終結ノ後逃走シテ出廷セス若クハ罰金以下ノ刑ニ該リタル被告人呼出ニ應セサルトキ亦同シ

第九十三條　禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人其宣告ヲ受ケテ逃走シ若クハ前條第二項ニ依リ宣告アリタル者禁錮以上ノ刑ニ該ルトキハ理事逮捕狀ヲ發ス可シ

逮捕狀執行ノ方法ハ勾引狀執行ノ例ニ依ル

若シ其所在分明ナラサルトキハ陸軍檢察官及ヒ控訴院ノ檢事長ニ人相書ヲ送リ逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第九十四條　被告人闕席ノママ宣告ヲ爲シタルトキハ其宣告書ヲ軍法會議ノ門前ニ掲示シ其一通ヲ被告人ノ住所ニ送達ス可シ

第七章　再審

第九十五條　陸軍大臣軍法會議ニ於テ法律ノ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ宣告シ若クハ法律ニ定ムル所ノ刑ヨリ重キ刑ヲ宣告シ若クハ無罪ノ宣告ヲ爲ス可キニ免訴ノ宣告ヲ爲シタルコトアルヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

第九十六條　軍法會議ノ宣告左ニ記載シタル條件ニ觸ルルモノアルトキハ理事及ヒ被告人ヨリ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得被告人死去シタルトキハ其親屬之ヲ爲スコトヲ得

一　人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ宣告アリタル後其殺サレタリト認メラレタル

者犯罪後現ニ生存シ又ハ犯罪前ニ死去シタル確證アリタルトキ

二　同一ノ事件ニ付共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ宣告ヲ受タタル者アリタルトキ

三　公正ノ證書ヲ以テ當時犯罪ノ場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ

四　既ニ判決ヲ經タル事件ニ對シ再ヒ判決アリタルトキ

五　被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリタルトキ

六　公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ僞造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ

第九十七條　陸軍大臣前條ニ記載シタル事實アルコトヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

長官其事實ヲ發見シタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第九十八條　闕席裁判ニテ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ再審ヲ申訴ヲ爲スコトヲ得但裁判宣告アリタルコトヲ知リ若クハ捕ニ就キ若クハ自首シタルトキハ重罪ノ刑ニ於テハ十日禁錮ノ刑ニ於テハ三日內ニ非サレハ申訴ヲ爲スコトヲ得ス

罰金以下ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其住所ニ宣告書ノ送達アリタル日ヨリ

三日內ニ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得

第九十九條　再審ノ申訴ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官ニ之ヲ爲ス可シ高等軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ナルトキハ陸軍大臣ニ其申訴ヲ爲ス可シ

理事其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ニ原裁判宣告書ノ謄本及ヒ證憑書類ヲ添フ可シ

被告人若クハ其親屬其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ヲ理事ニ出シ理事意見書ヲ添フ可シ

長官再審ノ申訴ヲ受ケタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ陸軍大臣ニ具申ス可シ闕席裁判ニ對スル申訴ナルトキハ直チニ再審ヲ爲サシム可シ

陸軍大臣再審ノ申訴ヲ受ケ若クハ長官ヨリ再審ノ具申ヲ受ケタルトキハ其再審ノ具申ヲ爲サシム可シ

第百條　陸軍大臣再審ノ命令ヲ下シタルトキハ刑ノ執行中ニ係ルモノハ其執行ヲ停止ス可シ

第百一條　再審ヲ爲シタル事件前ニ上奏ヲ經タルモノナルトキハ其判決ヲ上奏シテ裁可ヲ請フ可シ

第百二條（同上）
第百三條（同上）
第百四條（同上）
第百五條（同上）
第百六條（同上）

第九章　特赦（同上）

第百七條（同上）
第百八條（同上）
第百九條（同上）
第百十條（同上）
第百十一條（同上）

第八章　復權（明治四十一年四月九日法律第四十七號陸軍刑法施行法ヲ以テ削除）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海軍刑法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十一年四月九日

内閣總理大臣　侯爵　西園寺公望
海軍大臣　男爵　齋藤實

法律第四十八號

海軍刑法

第一編　總則……一
第二編　罪……四
第一章　叛亂ノ罪……四
第二章　擅權ノ罪……七
第三章　辱職ノ罪……八
第四章　抗命ノ罪……一二
第五章　暴行脅迫ノ罪……一三
第六章　侮辱ノ罪……一六
第七章　逃亡ノ罪……一七
第八章　軍用物損壞ノ罪……一八
第九章　掠奪ノ罪……一九
第十章　俘虜ニ關スル罪……二〇
第十一章　違令ノ罪……二一

海軍刑法施行法……二五
海軍治罪法……一
第一章　總則……一
第二章　軍法會議ノ構成……二
第三章　軍法會議ノ權限……七
第四章　海軍檢察……九
第五章　審問……一三
第六章　判決……二一
第七章　再審……二六
第八章　復權……二八
第九章　特赦……二九

海軍刑法

第一編　總則

第一條　本法ハ海軍軍人ニシテ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第二條　本法ハ海軍軍人ニ非スト雖左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

一　第六十二條乃至第六十五條ノ罪及此等ノ罪ノ未遂罪
二　第七十二條ノ罪
三　第七十八條乃至第八十五條ノ罪
四　第八十六條乃至第八十九條ノ罪
五　第九十一條乃至第九十三條ノ罪及第九十一條、第九十二條ノ未遂罪
六　第九十五條、第九十六條、第九十七條第二項、第九十八條及第百條ノ罪

第三條　本法ハ前二條ニ記載シタル者帝國外ニ於テ罪ヲ犯シタルトキト雖之ヲ適用ス

第四條　帝國軍ノ占領地ニ於テ海軍軍人刑法又ハ他ノ法令ノ罪ヲ犯シタルト

キハ之ヲ帝國內ニ於テ犯シタルモノト看做ス

海軍軍人ニ非スト雖帝國臣民、從軍外國人及俘虜ノ犯シタルトキ亦前項ニ同シ

第五條 帝國外ニ在ル海軍官衙團隊ニ屬シ若ハ從フ者又ハ之ニ俘虜タル者其ノ官衙團隊ノ所在地ニ於テ刑法又ハ他ノ法令ノ罪ヲ犯シタルトキ亦前條ニ同シ

第六條 海軍ト共同作戰ニ從フ陸軍軍人ニ對スル行爲ハ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル海軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス

第七條 海軍ト共同作戰ニ從フ外國ノ陸海軍ニ屬スル者ニ對スル行爲ハ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル海軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス但シ其ノ外國ニ於テ同一ノ取扱ヲ爲スコトヲ保セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 海軍軍人ト稱スルハ海軍ノ高等武官、候補生、准士官及下士卒ニシテ左ニ記載シタル者ヲ謂フ

一 現役ニ在ル者但シ召集中ニ非サル歸休兵ヲ除ク

二 豫備役、後備役ニ在リ召集中ノ者

三 前二號ニ記載シタル者ノ外海軍制服著用中ノ者

第九條 左ニ記載シタル者ハ海軍軍人ニ準ス

一 海軍所屬ノ學生、生徒

二 海軍軍屬

三 海軍ノ勤務ニ服スル陸軍軍人

前項第一號ニ記載シタル者ノ中特ニ除外スヘキ者アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 海軍軍屬ト稱スルハ海軍文官、同待遇者及宣誓シテ海軍ノ勤務ニ服スル者ヲ謂フ

第十一條 陸軍軍人ト稱スルハ陸軍刑法ニ於テ陸軍軍人ト爲ス者ヲ謂フ

第十二條 上官ト稱スルハ命令關係アル海軍軍人間ニ於テ命令權ヲ有スル者ヲ謂フ

命令關係ナキ者ノ間ニ於テハ官等、等級又ハ階級ノ上ナル者ハ之ヲ上官ニ準ス但シ卒ハ總テ同等トス

第十三條 指揮官ト稱スルハ艦船、軍隊ヲ指揮スル海軍軍人ヲ謂フ

陸海軍用船又ハ拿捕船舶ニ乘組ミ之ヲ監督スル海軍軍人ハ指揮官ニ準ス

第十四條 守兵ト稱スルハ儀仗又ハ警戒ノ爲守所ニ在ル海軍軍人ヲ謂フ

第十五條 事變又ハ一地方ノ騷擾ニ際シ其ノ鎮定ニ從事スル艦船、軍隊ニハ戰時ノ規定ヲ適用ス

第十六條 海軍ニ於テ死刑ヲ執行スルトキハ海軍法術ヲ管轄スル長官ノ定ムル場所ニ於テ銃殺ス

第十七條 多衆共同ノ暴行ヲ鎮壓スル爲又ハ敵前若ハ艦船危急ノ際ニ於テ軍紀ヲ保持スル爲已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

必要ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第十八條 前條ノ規定ハ刑法又ハ他ノ法令ノ罪ト爲ルヘキ行爲ニ亦之ヲ適用ス

第十九條 本法及陸軍刑法ニ於テ俱ニ罰スヘキ正條アリ且其ノ刑ニ輕重ナキトキハ海軍軍人ニ準スル者ト雖陸軍軍人ニ對シテハ陸軍刑法ヲ適用ス

第二編 罪

第一章 叛亂ノ罪

第二十條 黨ヲ結ヒ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ死刑ニ處ス

二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二十一條 反亂ヲ爲ス目的ヲ以テ黨ヲ結ヒ兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル物ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第二十二條 左ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

一 軍隊又ハ艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其ノ他ノ物ヲ敵國ニ交付スルコト

二 敵國ノ爲ニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助スルコト

三 軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄スルコト

四 敵國ノ爲ニ嚮導ヲ爲シ又ハ地理ヲ指示スルコト

五 敵國ニ降ラシムル爲指揮官ヲ强要スルコト

六 敵國ノ爲ニ俘虜ヲ奪取シ又ハ之ヲ逃走セシムルコト

第二十三條 敵國ヲ利スル爲左ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

一　艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其ノ他ノ物ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシムルコト

二　水陸ノ通路、橋梁、燈臺、浮標ヲ損壞又ハ壅塞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ艦船、軍隊ノ往來ノ妨害ヲ生セシムルコト

三　指揮官其ノ艦船、軍隊ヲ率ヰテ守所若ハ配置ノ場所ニ就カス又ハ其ノ場所ヲ離ルルコト

四　艦隊、隊兵ヲ解散シ又ハ其ノ潰走混亂ヲ誘起シ又ハ艦船、隊兵ノ連絡集合ヲ妨害スルコト

五　兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ヲ缺乏セシムルコト

六　命令、通報若ハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ虛僞ノ命令、通報若ハ報告ヲ爲スコト

七　造言飛語シ又ハ敵前ニ於テ叫呼喧噪スルコト

第二十四條　前二條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第二十五條　反亂者又ハ內亂者ヲ利スル爲前三ニ掲記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑、無期若ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二十六條　前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七條　第二十條乃至第二十五條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二十八條　第二十條又ハ第二十一條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者未タ事ヲ行ハサル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ免除ス

第二十九條　本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第二章　擅權ノ罪

第三十條　指揮官外國ニ對シ故ナク戰鬪ヲ開始シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十一條　指揮官休戰又ハ媾和ノ告知ヲ受ケタル後故ナク戰鬪ヲ爲シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十二條　指揮官權外ノ事ニ於テ已ムコトヲ得サル理由ナクシテ擅ニ艦船軍隊ヲ進退シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十三條　命令ヲ待タス故ナク戰鬪ヲ爲シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十四條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三章　辱職ノ罪

第三十五條　指揮官其ノ盡スヘキ所ヲ盡サスシテ敵ニ降リ又ハ其ノ艦船若ハ守所ヲ敵ニ委シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十六條　指揮官敵前ニ於テ其ノ盡スヘキ所ヲ盡サスシテ艦船、軍隊ヲ率ヰ逃避シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十七條　指揮官其ノ艦船危急ノ時ニ當リ故ナク救護ノ方法ヲ盡サス又ハ衆ニ先チテ其ノ艦船ヲ退去シタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ死刑ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十八條　指揮官敵ノ船舶ヲ拿捕スヘキ場合ニ於テ故ナク之ヲ拿捕セサルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第三十九條　指揮官敵前ニ於テ帝國又ハ帝國ト共同作戰ニ從フ外國ノ艦船ヲ救護スヘキ場合ニ於テ故ナク之ヲ救護セサルトキハ一年以上ノ有期禁錮ニ處ス

第四十條　指揮官護衛ノ命ヲ受ケタル艦船ヲ故ナク委棄シタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ死刑ニ處ス

二　戰時ナルトキハ五年以上ノ有期禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十一條　指揮官其ノ艦船、軍隊ヲ率ヰ故ナク守所若ハ配置ノ場所ニ就カス又ハ其ノ場所ヲ離レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ死刑ニ處ス

二　戰時ナルトキハ五年以上ノ有期禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十二條　指揮官又ハ乘員故ナク其ノ艦船ヲ覆沒又ハ破壞シタルトキハ死刑ニ處シ之ヲ損壞シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第四十三條　指揮官出兵ヲ要求スル權アル官憲ヨリ其ノ要求ヲ受ケ故ナク之ニ應セサルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十四條　指揮官衝突、坐礁其ノ他ノ危難ニ罹リタル艦船アルニ當リ救護ノ請求ヲ受ケ故ナク之ニ應セサルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十五條　部下多衆共同シテ罪ヲ犯スニ當リ鎮定ノ方法ヲ盡サヽル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十六條　艦船當直將校、守兵其ノ他緊要ナル勤務ニ服スル者故ナク其ノ勤務ノ場所ヲ離レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ死刑又ハ無期ノ禁錮ニ處ス

二　戰時又ハ擱岸、坐礁其ノ他艦船危險ノ場合ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十七條　艦船當直將校睡眠又ハ酩酊シテ其ノ職務ヲ怠リタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

二　戰時又ハ航海中ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十八條　守兵其ノ他緊要ナル勤務ニ服スル者前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十九條　戰時又ハ事變ニ際シ偵察ノ勤務ニ服スル者虚僞ノ報告ヲ爲シタルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス

戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關スル命令、通報又ハ報告ノ傳達ヲ掌ル者其ノ命令、通報若ハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ故ナク之ヲ傳達セサルトキ亦前項ニ同シ

第五十條　軍事機密ノ圖書、物件ヲ保管スル者危急ノ時ニ當リ之ヲ敵ニ委セサル方法ヲ盡サヽルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十一條　戰時又ハ事變ニ際シ兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ノ運搬又ハ支給ヲ掌ル者故ナク之ヲ缺乏セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第五十二條　健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ配給シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第五十三條　從軍ヲ免レ又ハ危險ナル勤務ヲ避クル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ、身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第五十四條　第三十五條乃至第三十七條、第四十條乃至第四十二條、第四十六條、第四十九條及第五十一條乃至第五十三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四章　抗命ノ罪

第五十五條　上官ノ命令ニ反抗シ又ハ之ニ服從セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ニ禁錮ニ處ス

二　戰時又ハ艦船救護ノ爲緊要ノ方略ヲ爲ス際ナルトキハ一年以上七年以下ノ禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十六條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ死刑ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二　戰時又ハ艦船救護ノ爲緊要ノ方略ヲ爲ス際ナルトキハ首魁ハ無期又ハ五年以上ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ三年以上十年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十七條　暴行ヲ爲スニ當リ上官ノ制止ニ從ハサル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第五章　暴行脅迫ノ罪

第五十八條　上官ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第五十九條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ無期若ハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ五年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十條　上官ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用ヰテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ死刑、無期若ハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ無期若ハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十一條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ死刑ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十二條　守兵ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十三條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十四條　守兵ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用ヰテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十五條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ死刑、無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十六條　上官又ハ守兵以外ノ海軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ首魁ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十七條　上官又ハ守兵以外ノ海軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用ヰテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ首魁ハ無期若ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十八條　多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三　附和隨行シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十九條　職權ヲ濫用シテ陵虐ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十條　第五十八條乃至第六十八條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第六章　侮辱ノ罪

第七十一條　上官ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

文書、圖畫若ハ偶像ヲ公示シ又ハ演說ヲ爲シ其ノ他公然ノ方法ヲ以テ上官ヲ侮辱シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十二條　守兵ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七章　逃亡ノ罪

第七十三條　故ナク職役ヲ離レ又ハ職役ニ就カサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　戰時ニ在リテ三日ヲ過キタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ニ於テ六日ヲ過キタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十四條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑、無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　戰時ニ在リテ三日ヲ過キタルトキハ首魁ハ五年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ニ於テ六日ヲ過キタルトキハ首魁ハ一年以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十五條 艦船ノ乘員故ナク其ノ艦船發航ノ期ニ後レタルトキハ其ノ經過日數ヲ問ハス前二條ノ規定ヲ適用ス

第七十六條 敵ニ奔リタル者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

第七十七條 第七十三條第一號、第七十四條第一號及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八章 軍用物損壞ノ罪

第七十八條 海軍ノ艦船、工場、戰鬪ノ用ニ供スル建造物、汽車、電車若ハ橋梁又ハ海軍ノ軍用ニ供スル物ヲ貯藏スル倉庫ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役ニ處ス

第七十九條 露積シタル兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他海軍ノ軍用ニ供スル物ヲ燒燬シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 戰時ナルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

第八十條 火藥、汽罐其ノ他激發スヘキ物ヲ破裂セシメテ前二條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ燒燬ノ例ニ同シ

第八十一條 海軍ノ艦船ヲ覆沒又ハ破壞シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十二條 第七十八條ニ記載シタル物又ハ海軍戰鬪ノ用ニ供スル鐵道、電線若ハ水陸ノ通路ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

第八十三條 兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他海軍ノ軍用ニ供スル物ヲ毀棄又ハ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第八十四條 第七十八條乃至第八十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十五條 本章ノ規定ハ海軍ト共同作戰ニ從フ外國陸海軍ノ軍用物ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第九章 掠奪ノ罪

第八十六條 戰地又ハ帝國軍ノ占領地ニ於テ住民ノ財物ヲ掠奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯スニ當リ婦女ヲ强姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第八十七條 戰場ニ於テ戰死者又ハ戰傷病者ノ衣服其ノ他ノ財物ヲ褫奪シタ

ル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十八條 前二條ノ罪ヲ犯ス者人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十九條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十章 俘虜ニ關スル罪

第九十條 俘虜ヲ看守又ハ護送スル者其ノ俘虜ヲ逃走セシメタルトキハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十一條 俘虜ヲ逃走セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

俘虜ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其ノ他逃走ヲ容易ナラシムヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第九十二條 俘虜ヲ奪取シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十三條 逃走シタル俘虜ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十四條 第九十條乃至第九十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十一章 違令ノ罪

第九十五條 守兵ヲ欺キテ守所ヲ通過シ又ハ守兵ノ制止ニ背キタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ一年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス

二 戰時ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十六條 歸休兵及豫備役、後備役ニ在ル者故ナク召集ノ期限ニ後レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 戰時ニ際シ又ハ事變ノ爲召集ヲ受ケタル場合ニ於テ五日ヲ過キタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ニ於テ十日ヲ過キタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十七條 兵役ヲ免ルル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ、身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

歸休兵及豫備役、後備役ニ在ル者召集ヲ免ルル目的ヲ以テ前項ノ行爲ヲ爲

シタルトキ亦前項ニ同シ

第九十八條 艦船ノ危急ニ際シ指揮官ノ指揮ヲ待タス其ノ艦船ヲ退去シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ三年以上ノ有期禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十九條 戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關スル虚僞ノ命令、通報又ハ報告ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第百條 戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關シ造言飛語ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第百一條 禮砲、號砲其ノ他空包ヲ發スヘキ場合ニ於テ彈丸、瓦石其ノ他ノ物ヲ裝塡シテ發シタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第百二條 守兵故ナク銃砲ヲ發シタルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第百三條 戰時又ハ事變ニ際シ急呼ノ號報アリタル場合ニ故ナク來會セサル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第百四條 政治ニ關シ上書、建白其ノ他請願ヲ爲シ又ハ演說若ハ文書ヲ以テ意見ヲ公ニシタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第百五條 服從ノ義務ニ違フヘキ事ヲ目的トシテ黨ヲ結ヒタルトキハ首魁ハ六月以上五年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十四年第七十號布告海軍刑法ハ之ヲ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海軍刑法施行法ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十一年四月九日

内閣總理大臣　侯爵　西園寺公望
海軍大臣　男爵　齊藤　實

法律第四十九號

海軍刑法施行法

第一條　本法ニ於テ舊海軍刑法ト稱スルハ明治十四年第七十號布告海軍刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ海軍刑法施行前ニ施行シタル法律及勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條　海軍刑法施行前ニ舊海軍刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ海軍刑法ニ定メタル主刑ト舊海軍刑法又ハ他ノ法律ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其ノ輕重ヲ定ム

海軍刑法ニ定メタル刑	舊海軍刑法又ハ他ノ法律ノ刑
死刑	死刑
無期懲役	無期徒刑
無期禁錮	無期流刑
有期懲役	有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮
有期禁錮	有期流刑、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮

第三條　刑法施行法第三條ノ規定ハ前條ニ定メタル刑ノ對照ニ之ヲ準用ス

第四條　刑法第六條ニ依リ舊海軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ剝奪公權、剝官、停止公權、監視又ハ罰金ヲ附加スヘキトキト雖之ヲ附加セス

前項ノ場合ニ於テハ將校ニ非スシテ官職ヲ有スル者將校ニ在リテ剝官ヲ附加スル刑ニ該ルトキト雖其ノ官職ヲ失ハス

第五條　海軍刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付海軍刑法施行ノ前又ハ後ニ確定裁判アリタル後海軍刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

一　確定裁判アリタル罪ニ舊海軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖海軍刑法ニ於テハ其ノ罪ト餘罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

二　確定裁判アリタル罪ニ海軍刑法ヲ適用シタルトキト雖舊海軍刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其ノ罪ト餘罪トニ付數罪俱發ニ關スル規定ニ依ル

第六條　左ニ記載シタル者海軍刑法施行前更ニ海軍刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル舊海軍刑法ノ罪ヲ犯シ海軍刑法施行後其ノ罪ニ付裁判ヲ爲ストキハ海軍刑法ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一　舊海軍刑法ニ依リ海軍刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者

二　舊海軍刑法ニ依リ海軍刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ依リ死刑ニ處セラレ其ノ執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ依リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第七條　海軍刑法施行前ニ犯シタル一罪ト海軍刑法施行後ニ犯シタル海軍刑法ノ一罪又ハ數罪トニ付同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ海軍刑法施行前ノ罪ニ舊海軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スヘキトキト雖其ノ罪ト海軍刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第八條　海軍刑法施行前ニ犯シタル數罪ト海軍刑法施行後ニ犯シタル海軍刑法ノ一罪又ハ數罪トニ付同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ海軍刑法施行前ノ罪ニ舊海軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スヘキトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一ノ重キ罪ト海軍刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ海軍刑法施行前ノ罪ニ海軍刑法ヲ適用スヘキトキハ其ノ

數罪ト海軍刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第九條 海軍刑法施行後ニ犯シタル海軍刑法ノ罪ニ付確定裁判アリタル後海軍刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ餘罪ニ舊海軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スヘキトキト雖確定裁判アリタル罪ト餘罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條 海軍刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付海軍刑法施行後確定裁判アリタル後海軍刑法施行後ニ犯シタル海軍刑法ノ罪タル餘罪ニ付裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊海軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖其ノ罪ト餘罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條 海軍刑法ノ罪ト刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ノ罪ト併合罪タルヘキ場合ニ於テハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ノ罪ヲ海軍刑法ノ罪ト看做シ第三條、第五條及第七條乃至第十條ノ規定ヲ適用ス

第十二條 第六條第一項各號ニ記載シタル者海軍刑法施行後有期懲役ニ該ル海軍刑法ノ罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 海軍刑法施行後ハ舊海軍刑法又ハ海陸軍刑律ノ刑ニ處セラレタル者ト雖刑ノ執行、假出獄及時效ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但シ死刑ニ付テハ海軍ニ於テ之ヲ執行スル場合ニ限リ海軍刑法ノ規定ヲ準用ス他ノ法律ニ依リ處セラレタル死刑ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ第二條及明治十五年第四號布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲スヘシ

舊海軍刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ海軍刑法施行前ニ於ケル時效期間ノ起算及時效ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

第十四條 海軍刑法施行後ハ他ノ法律ニ依リ處セラレタル罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニハ軍法會議ニ於テハ主理其ノ言渡ヲ爲スヘシ

第十五條 海軍刑法施行後ハ刑法第六條ニ依リ舊海軍刑法又ハ他ノ法律ノ刑ニ處スヘキ者ト雖刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲スヘシ

第十六條 海軍刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ海軍刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

第十七條 剝奪公權、停止公權及監視ノ言渡ハ海軍刑法施行ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ

第十八條 人ノ資格其ノ他ノ事項ニ關シ舊海軍刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ揭ケタル他ノ法律ノ規定ハ海軍刑法ノ施行ノ爲變更セラルルコトナシ

第十九條 刑法施行法第二十九條及第三十條ノ規定ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ海軍刑法ノ罪ニ之ヲ準用ス

第二十條 刑法施行法第三十三條乃至第三十六條ノ規定ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ海軍刑法ニ定メタル刑又ハ舊海軍刑法ノ刑ニ處セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第二十一條 海軍刑法ニ依リ六年未滿ノ懲役又ハ一年以上六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊海軍刑法ノ剝官ヲ附加セラレ又ハ之ヲ附加スヘキ刑ニ處セラレタル者ト看做ス舊海軍刑法ノ剝官ヲ附加スヘキ刑ニ處セラレタル者ニ付亦同シ

第二十二條 他ノ法律中舊海軍刑法第十七條、第十八條及第二十一條ノ規定アル爲人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケサリシ場合ニ付テハ舊海軍刑法第十七條、第十八條及第二十一條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ海軍刑法施行前ト

同一ノ效力ヲ有ス

第二十三條 舊海軍刑法ト刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令トノ關係ニ付テハ舊海軍刑法ヲ舊刑法ト看做シ刑法施行法第二條、第三條、第五條、第六條及第八條乃至第十一條ノ規定ヲ適用ス但シ剝官ニ關シテハ本法第四條ノ例ニ依ル

第二十四條 海軍治罪法ニ於テ軍人ト稱スルハ海軍刑法第八條第一號、第二號及第九條第一項第一號、第二號ニ記載シタル者ヲ謂ヒ陸軍軍人ト稱スルハ陸軍刑法第八條第一號乃至第三號、第五號及第九條第一項第一號、第二號ニ記載シタル者ヲ謂フ

第二十五條 刑事訴訟法第八條ノ規定ハ軍法會議ニ於テ審判スヘキ事件ニ之ヲ準用ス

第二十六條 海軍治罪法中復權及特赦ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

第二十七條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ爲シタル軍法會議ニ於テ判決ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條 軍法會議ニ於テハ刑ノ執行猶豫ハ判決ヲ以テ之ヲ爲シ刑ノ言渡

ト同時ニ之ヲ言渡スヘシ

第二十九條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ニ最モ近キ軍法會議ニ於テ判決ヲ以テ之ヲ取消シ其ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三十條　前三條ノ判決及其ノ言渡ニ付テハ海軍治罪法中判決ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十一條　軍法會議ニ於テハ證人、鑑定人及通事ノ日當、旅費其ノ他ノ給與ニ關シ刑法施行法第六十三條乃至第六十六條ノ規定ヲ準用ス但シ豫審判事、受託判事又ハ裁判所ノ行フヘキ職務ハ主理之ヲ行フ

附　則

本法ハ海軍刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

海軍治罪法

（明治二十二年二月法律第五號）

第一章　總　則

第一條　軍人ノ犯シタル重罪輕罪ノ審判及違警罪ノ正式裁判ハ軍法會議ニ於テ之ヲ爲ス（明治二十二年法律第二十六號ヲ以テ改正）

海軍官署若クハ軍人ノ損害ニ係ル本案附帶ノ私訴アルトキハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二條　軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其裁判宣告ヲ爲ストキハ軍人ニ限リ之ヲ許ス

第三條　軍人ト稱スルハ海軍刑法第五十條第五十一條ニ記載シタル者ヲ謂フ

陸軍軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第四條　長官ト稱スルハ海軍大臣及ヒ司令官ヲ謂フ

司令官ト稱スルハ鎮守府司令長官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦隊司令官及ヒ合圍ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第六條 普通治罪法第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十八條第三十九條第百條第百一條第百三十三條第三項第百四十六條第百五十六條第二百六十一條第一項ハ此治罪法ニ於テ之ヲ適用ス

第七條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第八條 臨戰合圍ノ地ニ於テハ司令官審判ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二章 軍法會議ノ構成

第九條 軍法會議ヲ設クルコト左ノ如シ

東京軍法會議
鎮守府軍法會議
艦隊軍法會議
高等軍法會議
合圍地軍法會議

東京軍法會議及ヒ鎮守府軍法會議ハ常設ト爲シ艦隊軍法會議ハ臨時各艦隊ニ之ヲ設ケ高等軍法會議ハ臨時東京ニ之ヲ設ケ合圍地軍法會議ハ臨戰合圍ノ戒嚴間之ヲ設ク

第十條 軍法會議ハ判士長判士主理若クハ主理試補及ヒ錄事ヲ以テ構成ス

第十一條 判士長判士ハ高等軍法會議ニ於テハ第一表ニ據リ他ノ軍法會議ニ於テハ第二表ニ據リ將校ヲ以テ之ニ充ツ

臨戰合圍ノ地ニ於テハ判士二名ヲ減スルコトヲ得

第一表

判士長	判士	被告人
佐官 一名	尉官 四名	陸海軍下士以下ノ軍人
佐官 一名	大尉 少尉 二名 二名	海軍少尉及同等ノ陸海軍人竝ニ准士官
佐官 一名	大尉(奏任官四等)二名 少尉(同五等)二名若クハ三名	海軍大尉(奏任官五等)及ヒ同等ノ陸海軍人
大佐 一名	少佐 大尉(奏任官四等)二名 二名若クハ一名	海軍大尉(奏任官四等)及ヒ同等ノ陸海軍人
大佐(奏任官一等)一名	大佐(奏任官二等)二名 少佐 二名若クハ三名	海軍少佐及ヒ同等ノ陸海軍人
少將 一名	大佐(奏任官一等)二名若クハ一名 大佐(同二等)二名若クハ三名	海軍大佐(奏任官二等)及ヒ同等ノ陸海軍人

中將	一名	少將大佐(奏任官一等)	二名若クハ一名及ヒ同等ノ陸海軍人
中將	一名	中將少將	二名若クハ一名海軍少將及ヒ同等ノ陸海軍人
大將	一名	中將少將	三名若クハ二名一名若クハ二名海軍中將及ヒ同等ノ陸海軍人
大將	一名	大將中將	一名三名陸海軍大將

第二表

判士長	判士	被告人	
佐官	一名	尉官	四名 陸海軍下士以下ノ軍人
佐官	一名	大尉少尉	二名二名海軍少尉及ヒ同等ノ陸海軍人竝ニ准士官
佐官	一名	大尉(奏任官四等)大尉(同五等)	二名若クハ一名及ヒ同等ノ陸海軍人
大佐	一名	少佐大尉(奏任官四等)	二名若クハ一名及ヒ同等ノ陸海軍人
大佐(奏任官一等)一名		大佐(奏任官二等)少佐	二名若クハ一名海軍少佐及ヒ同等ノ陸海軍人
少將	一名	大佐(奏任官一等)大佐(同二等)	二名若クハ一名海軍大佐(奏任官二等)及ヒ同等ノ陸海軍人
中將	一名	少將大佐(奏任官一等)	二名若クハ一名海軍大佐(奏任官一等)及ヒ同等ノ陸海軍人

第十二條 軍人ニ非サル者ヲ軍法會議ニ於テ審判ス可キトキハ其身分ニ依リ前條ノ各表ニ照シテ判士長判士ヲ定ム

第十三條 外國又ハ戰地ニ數隻ノ艦船ヲ差遣スルトキハ海軍大臣其先任艦長ニ軍法會議ヲ開クノ權ヲ附與スルコトヲ得此場合ニ於テハ其權限艦隊司令官ニ同シ

第十四條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ストキハ海軍大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

佐官ヲ以テ判士長判士ト爲シ尉官ヲ以テ判士ト爲ストキ東京ニ於テハ海軍大臣之ヲ命シ鎮守府若クハ艦隊ニ於テハ司令官其部下ヨリ之ヲ命ス

艦隊ニ於テ判士ト爲ル可キ將校缺乏スルトキハ准將校ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

鎮守府若クハ艦隊ニ於テ部下ニ非サル者ヲ以テ判士長判士ト爲スヲ要スルトキハ司令官ノ上申ニ依リ海軍大臣之ヲ命ス

第十五條 艦隊軍法會議ニ於テハ司令官部下ノ將校准將校ヲシテ主理ノ職務ヲ行ハシメ士官若クハ下士ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十六條 合圍地軍法會議ノ判士長判士ハ司令官其部下中ヨリ之ヲ命ス

第十七條 臨戰合圍地ニ於テハ司令官專任判士ヲ命スルコトヲ得又部下ノ下士ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

合圍ノ地ニ於テハ司令官其地所在ノ高等官ヲ以テ判士若クハ主理ニ充テ判任官ヲ以テ錄事ニ充ツルコトヲ得

第十八條 判士長判士主理左ニ記載シタル者ナルトキハ其審判ニ從事スルコトヲ得ス

一 被告人被害者及ヒ其配偶者ノ親屬

一 被告人被害者ノ後見人

三 告發人被害者及證據ヲ陳述シタル者

第十九條 原裁判ニ從事シタル判士長判士主理ハ再議及ヒ再審ノ裁判ニ列スルコトヲ得ス

海軍檢察ノ職務ヲ行ヒタル者ハ其事件ノ審判ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條ノ場合ニ於テ審問ヲ爲シタル者ニハ其事件ノ判士長判士ヲ命スルコトヲ得ス

第二十條 第十四條第四項ノ場合ニ於テ海軍大臣ハ判士長判士ヲ命セスシテ被告人ヲ他ノ常設ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章 軍法會議ノ權限

第二十一條 東京軍法會議ハ左ニ記載シタル者ヲ審判ス

一 司令官ノ部下ニ屬セサル佐官以下ノ軍人其他海軍ノ用ニ供スル船舶ノ乘員ニシテ罪ヲ犯シタル者(明治二十二年法律第二十二號ヲ以テ改正)

二 第二十三條第二項第三項ニ依リ審判ノ委託ヲ受ケタル者

第二十二條 鎭守府軍法會議ハ左ニ記載シタル者ヲ審判ス(同上)

一 鎭守府司令長官ノ部下ニ屬スル佐官以下ノ軍人其他鎭守府ノ用ニ供スル船舶ノ乘員ニシテ罪ヲ犯シタル者

二 第二十三條第二項第三項ニ依リ審判ノ委託ヲ受ケタル者

第二十三條 艦隊軍法會議ハ艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦隊司令官ノ部下ニ屬スル佐官以下ノ軍人其他從軍諸員及ヒ艦隊ノ用ニ供スル船舶ノ乘員ニシテ罪ヲ犯シタル者ヲ審判ス(同上)

艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦隊司令官ハ時機ニ依リ前項ニ記載シタル者ノ審判ヲ常設ノ軍法會議ニ委スルコトヲ得

艦隊ニ屬スル艦船長ハ事件急速ヲ要スル場合ニ於テハ直チニ前項ノ處分ヲ

爲スコトヲ得但其事由ヲ速ニ其艦隊司令官若クハ分遣艦隊司令官ニ報告ス可シ

第二十四條 艦隊若クハ數隻ノ艦船外國ニ出發ノ後其司令官若クハ先任艦長ノ部下ニ屬スル者內國ニ在テ犯罪發覺シタルトキハ本人所在ノ地最近ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス可シ

第二十五條 佐官以下ノ軍人軍法會議所在ノ軍區內ニ於テ罪ヲ犯シタルトキハ管轄外ノ者ト雖モ其地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得(同上)

第二十六條 高等軍法會議ハ將官若クハ其同等軍人ノ犯シタル罪ヲ審判シ及ヒ再審ノ審判ヲ爲ス(同上)

第二十七條 合圍地軍法會議ハ第二十一條第二十二條第二十三條ニ記載シタル者ノ臨戰合圍ノ地ニ在リテ犯シタル罪ヲ審判ス(同上)

第二十八條 合圍地軍法會議ニ於テハ從軍常人ノ犯罪ヲ審判シ又何人ト雖モ海軍刑法ヲ以テ論ス可キ罪ヲ犯シタルトキハ其審判ヲ爲ス可シ

第二十九條 臨戰合圍ノ地ニ於テ專任判士ヲ以テ構成シタル軍法會議ハ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ノ外被告人ノ身分ニ拘ハラス其犯罪ヲ審判スルコトヲ得

第三十條 俘虜降人ノ犯罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十一條 軍人任官就役前ノ犯罪ト雖モ在官現役中ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス在官現役中ノ犯罪ト雖モ免官若クハ現役ヲ去リタル後告訴告發アリタルトキハ普通裁判所ノ裁判ニ付ス

第三十二條 軍人二人以上共ニ罪ヲ犯シ若クハ附帶犯ニシテ各其管轄ヲ異ニスルトキハ先キニ審判ニ著手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判シ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ト共犯若クハ附帶犯ニ係ルトキハ高等軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス陸軍軍人ト共犯若クハ附帶犯ニ係ルトキモ亦同シ(同上)

第三十三條 數罪俱ニ發シテ各其管轄ヲ異ニシ又ハ審判中裁判管轄變更シタルトキハ既ニ審判ニ著手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十四條 重罪輕罪ト俱ニ發シ若クハ重罪輕罪ニ附帶シ若クハ重罪輕罪ト認メ審判ニ著手シタル違警罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十五條 合圍地軍法會議ヲ廢スルトキ其軍法會議ニ於テ管轄シタル被告事件ハ通常ノ權限ニ照シ管轄軍法會議ヲ以テ其管轄ト爲ス

第四章 海軍檢察

第三十六條　海軍檢察ハ海軍ニ關スル犯罪ヲ搜査シ證憑ヲ收集ス

第三十七條　海軍檢察官ハ左ニ記載シタル諸官ヲ以テ之ニ充ツ

一　艦船營副長分隊長

二　生徒隊司令官生徒分隊長及ヒ學校監事

三　衛兵司令

四　軍法會議ノ主要及ヒ主理試補

第三十八條　各廳長及ヒ艦船營長ハ各其管スル所ノ事ニ關シ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ檢察ノ處分ヲ爲シ若クハ海軍檢察官ニ其處分ヲ委ス可シ

第三十九條　何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢事司法警察官ニ之ヲ告訴スルコトヲ得

第四十條　何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ告發スルコトヲ得

第四十一條　海軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人及ヒ海軍ノ用ニ供スル船舶乘員ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ第三十九條ニ記載シタル諸官ニ告發ス可シ

第四十二條　憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢事司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ其事件ヲ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長ニ交付ス可シ

第四十三條　海軍檢察官憲兵ノ將校下士卒又ハ司法警察官巡査ハ軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ直ニ之ヲ逮捕ス可シ

第四十四條　何人ヲ論セス軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルトキハ直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得其逮捕シタル者ハ海軍檢察官又ハ司法警察官若クハ憲兵卒巡査ニ之ヲ交付ス可シ

第四十五條　憲兵卒巡査現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官ニ之ヲ引致ス可シ

第四十六條　海軍檢察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲シ調書ヲ作ル可シ

各廳長艦船營長現行犯ノ軍人ヲ逮捕シタルトキハ前項ノ處分ヲ爲シ又ハ其處分ヲ海軍檢察官ニ委シ若クハ憲兵ノ將校下士ニ囑託スルコトヲ得

第四十七條　海軍檢察官各廳長艦船營長現行犯人ヲ逮捕シ若クハ其檢證處分ヲ爲ストキハ公力ヲ用フルコトヲ得

第四十八條　海軍檢察官及ヒ各廳長艦船營長軍人ト共犯ノ常人アルコトヲ知リタルトキハ前數條ニ照シ其處分ヲ爲ス可シ

第四十九條　憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲シ調書ヲ作リ海軍檢察官ニ之ヲ送致ス可シ

第五十條　告訴人告發人ハ其願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更センコトヲ請求スルコトヲ得

第五十一條　海軍檢察官各廳長艦船營長檢察ノ處分ヲ爲シタルトキハ被告事件ニ證憑物件ヲ添ヘ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一　重罪輕罪ト認ムルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ但艦隊ニ於テハ被告人所屬ノ艦船長ヲ經由ス可シ

二　違警罪ト認ムルトキハ之ヲ管轄ス可キ官司ニ交付ス可シ

三　裁判管轄ニ非サル者軍人ナルトキハ之ヲ其事件ヲ管理ス可キ長官部下ノ海軍檢察官ニ送致シ陸軍々人ナルトキハ其事件ヲ管轄ス可キ軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ常人ナルトキハ檢察處分ヲ爲シタル地ノ檢事ニ送致ス可シ但軍人ト共犯ノ常人ナルトキハ長官ニ具申ス可シ

四　高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルモノナルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申ス可シ

第五章　審問

第五十二條　長官被告事件ノ具申ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一　其犯罪輕罪以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ審問若クハ審判ノ命令ヲ下シ禁錮以下ノ刑ニ該ル可キモノニシテ審問ヲ要セスト認ムルトキハ直チニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

二　審問若クハ審判若クハ判決ノ命令ヲ下シタルトキハ其事件ヲ主理ニ下付ス可シ

第五十三條　主理審問ヲ爲ストキハ先ツ召喚狀ヲ發ス可シ

被告人出廷シタルトキハ即日之ヲ訊問ス可シ

罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人ハ代人ヲ出廷セシムルコトヲ得

第五十四條　主理ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第五十五條　主理ハ重罪ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ナルトキ又ハ輕

罪以下ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ニシテ罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走ノ恐アルトキ又ハ未遂罪ヲ犯シ其目的ヲ遂ケ若クハ脅迫罪ヲ犯シ其手段ヲ實行スルノ恐アルトキハ直チニ勾引狀ヲ發ス可シ

第五十六條　主理ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニアルトキハ其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ訊問ヲ囑託スルコトヲ得又其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官ニ召喚狀ノ送達勾引狀ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得

第五十七條　勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時內ニ之ヲ訊問ス可シ四十八時ヲ經過シ仍ホ留置ヲ要スルトキハ收禁狀ヲ發ス可シ

第五十八條　主理ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ訊問ノ條件ヲ明示シテ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十九條　主理ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校及ヒ各控訴院ノ檢事長ニ人相書ヲ送リ其逮捕ヲ求ムルコ

トヲ得

第六十條　主理ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得

收禁狀ヲ發シタル後被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非ス又ハ收禁ヲ要セサルモノト認ムルトキハ收禁ヲ取消ス可シ

第六十一條　勾引狀收禁狀ハ衛兵若クハ軍屬ヲシテ之ヲ執行セシム可シ

勾引狀ヲ受ク可キ被告人艦船營內若クハ隊伍ニ在ルトキハ艦船營長隊伍ノ長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ

陸軍營內若クハ隊伍ニ在ルトキハ隊長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ

勾引狀ヲ執行スルニ方リ被告人其家宅若クハ他人ノ家ニ逃匿シタリト認ムルトキハ其地ノ戶長若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索シ其調書ヲ作リ立會人ト共ニ署名捺印ス可シ若シ立會ヲ求ムルニ暇アラス若クハ之ヲ得ル能ハサルトキハ其立會ナクシテ搜索ヲ爲スコトヲ得

第六十二條　主理ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲スコトヲ得

其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士

又ハ豫審判事司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十三條　主理ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告事件ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコトヲ得

其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ前條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十四條　主理ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得

證人皇族若クハ勅任官ナルトキハ主理其所在ニ就キ陳述ヲ聽ク可シ

證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ主理其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

證人遠隔ノ地ニアルトキハ第六十二條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十五條　左ニ記載シタル者ハ證人ト爲スコトヲ得ス但事實參考ノ爲メ其陳述ヲ聽クコトヲ得

一　被害者

二　被害者及ヒ被告人ノ親屬

三　被害者及ヒ被告人ノ後見人又ハ其後見ヲ受クル者

四　被害者及ヒ被告人ノ雇人

五　現ニ陳述ヲ爲ス可キ事件ニシテ曾テ訴ヲ受ケ證憑充分ナラサルニ因リ免訴ノ宣告ヲ受ケタル者

六　重罪事件ノ爲メ軍法會議ノ判決ニ付セラレタル者若クハ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者及ヒ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ノ爲メ軍法會議又ハ普通裁判所ノ判決ニ付セラレタル者

七　公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ公權ヲ停止セラレタル者

八　十六歳未滿ノ者

九　知覺精神ノ不充分ナル者

十　瘖啞者

第六十六條　主理被告人證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲ストキハ錄事之ニ立會ヒ調書ヲ作リ訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人證人事實參考人ニ讀示ス可シ

主理ハ其讀示シタル所其陳述ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ陳述者ヲシテ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ記セシ

ム可シ

急遽ノ際若クハ事故アリテ錄事立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ其立會ナクシテ本條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 主理犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要スルトキハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ但第六十五條ニ記載シタル者ハ鑑定人ト爲スコトヲ得ス若シ急遽ノ際正當ノ鑑定人ヲ得ルコト能ハサルトキハ參考ノ爲メ之ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

鑑定ヲ爲シタル者ハ鑑定書ヲ作リ其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ若シ結果ヲ得ルコト能ハサルトキハ其推測スル所ヲ記シ之ニ署名捺印ス可シ

第六十八條 主理ハ證人通事鑑定人ヲシテ正實ニ陳述通譯鑑定ヲ爲ス可キコトヲ宣誓セシム可シ

主理ハ證人通事鑑定人ニ宣誓書ヲ讀示シ之ニ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ附記セシム可シ

宣誓書ハ訴訟書類ニ添ヘ置ク可シ

第六十九條 主理ハ證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命シタル者疾病其他正當ノ事故ヲ證明セスシテ呼出ニ應セサルトキハ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ若シ再度ノ呼出ニ應セサルトキハ更ニ二倍ノ罰金ヲ科ス可シ若シ五日內ニ正當ノ事故アリテ出廷スルコト能ハサリシコトヲ證明シタルトキハ罰金ノ宣告ヲ取消ス可シ

前項ノ場合ニ於テ證人事實參考人ニ對シテハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第七十條 主理ハ證人鑑定人宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ陳述鑑定ヲ肯セサルトキハ證人ハ普通刑法第百八十條ニ依リ鑑定人ハ同法第百七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ

證人トシテ呼出シタル醫師藥商穩婆代言人辯護人公證人神官僧侶其身分職業ニ關スル祕密ノ事件ニ因リ委託ヲ受ケタル事ニ關シ陳述ヲ肯セサルトキハ前項ノ例ニ在ラス

第七十一條 主理ハ通事宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ通譯ヲ肯セサルトキ又ハ事實參考ノ爲メ陳述鑑定ヲ命セラレタル者之ヲ肯セサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第七十二條 主理ハ證人事實參考人ノ陳述ヲ確實ナラシムル爲メ犯所若クハ

其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

證人事實參考人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第六十九條ニ照シ罰金ヲ科ス可シ

第七十三條　證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者ニ科シタル罰金ヲ完納セシメ若クハ罰金ヲ禁錮ニ換フルノ處分ハ普通刑法第二十七條ニ依リ主理之ヲ爲ス可シ

第七十四條　主理ハ被告事件ニ關スル調書說明ノ爲メ其調書ヲ作リタル海軍檢察官又ハ司法警察官其他ノ官吏ヲ呼出スコトヲ得

第七十五條　主理審問ニ於テ共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺擧シタルトキハ直ニ之ヲ審問ス可シ但其共犯者附帶犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ

第七十六條　軍人ト共犯セシ常人ハ審問ヲ終リタル後證憑物件ヲ添ヘ其共犯事件ヲ管轄スル軍法會議所在ノ地ノ檢事ニ送致ス可シ

第七十七條　主理ハ審問中被告人ヲ其親屬故舊ニ責付スルコトヲ得但艦船營內居住ノ者ハ責付スルノ限ニ在ラス

第七十八條　主理審判若クハ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ノ審問ヲ終リ若クハ

判決ノ命令ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一　審判若クハ判決ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テハ意見書ヲ作リ訴訟書類ト共ニ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ定メ判士長判士ニ通報ス可シ

二　裁判管轄ニ非ス若クハ免訴ト爲ス可キ事件ニ於テハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テモ亦同シ

第七十九條　長官審問ノ命令ヲ下シタル事件ノ具申ヲ受ケ其事件有罪ナリト認ムルトキハ更ニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

第六章　判決

第八十條　軍法會議ハ判士長判士主理錄事列席シテ之ヲ開ク可シ

第八十一條　判士長ハ被告人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ

主理其審問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第八十二條　判士長ハ開廷ヨリ判決終結ニ至ルマテノ間必要ト認ムルトキハ

令狀ヲ發スルコトヲ得

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得

法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アルトキハ判士長檢證ノ處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其處分ヲ爲サシメ調書及ヒ證憑文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ但其犯人被告人ナルトキハ本案事件ト共ニ直ニ判決ヲ爲ス可シ

第八十三條　判士長ハ法廷其他ノ場合ニ於テ證人通事鑑定人ヲ要シ若クハ調書說明ノ爲メ官吏ノ呼出ヲ要スルトキハ第五章ノ例ニ依ル

第八十四條　證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者疾病其他正當ノ事故ナクシテ呼出ニ應セサルトキハ主理ノ意見ヲ聽キ軍法會議ニ於テ直ニ左ノ罰金科料ヲ科ス可シ

一　違警罪事件ニ於テハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料

二　輕罪以上ノ事件ニ於テハ二圓以上二十圓以下ノ罰金

第八十五條　判士長ハ證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ

主理其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ

求ムルコトヲ得

第八十六條　判決ノ爲メ更ニ檢證處分ヲ要スルコトアルトキハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺舉シタルトキハ直ニ其判決ヲ爲シ若クハ主理ニ移シテ其審問ヲ爲サシム可シ但其共犯者附帶犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ判士長ヨリ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ

第八十七條　被告人ノ訊問終リタルトキハ判士長更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス可キコトナキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタル旨ヲ告ケ被告人ヲ退廷セシメ其判決ヲ爲ス可シ

第八十八條　禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ開廷ノ日時ニ出廷セス若クハ其逃走ニ因リ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得サルトキ及ヒ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ開廷ノ日時ニ出廷セサルトキハ闕席裁判ヲ爲スコトヲ得

第八十九條　數人共犯ノ判決ヲ爲ストキハ被告人中闕席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ其判決ヲ爲スコトヲ得

第九十條　主理ハ會議席ニ列シ意見書ノ趣旨ヲ說明ス可シ

會議ノ判決其意見ト合ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ判決書ニ添フルコトヲ得

其判決法律ニ違ヒ再議ス可キ理由アリト認ムルトキハ之ヲ其判決ノ命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ

第九十一條　判決書ハ主理左ノ條件ニ照シテ之ヲ作リ判士長判士錄事ト共ニ署名捺印シ訴訟文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ

一　判決ノ理由

二　有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證憑及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條

三　無罪ノ判決書ニハ被告人ノ死去セシコト若クハ人違ヒナリシコト若クハ被告事件罪トナラサルコト若クハ犯罪ノ證憑備ラサルコト

四　免訴ノ判決書ニハ公訴期滿免除ト爲リタルコト若クハ大赦アリタルコト若クハ確定裁判ヲ經タルコト若クハ法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト

五　管轄違ヒノ判決書ニハ其旨

六　私訴ノ裁判アリタルトキハ其旨

七　被告人ノ官位勳爵隊號職名氏名族籍年齡住所判決ノ年月日

第九十二條　長官左ニ記載シタルモノハ訴訟書類ヲ添ヘ海軍大臣ニ具申シ其

他ハ裁判宣告ノ命令ヲ下ス可シ

一　死刑ニ該リタルトキ

二　佐官及ヒ同等軍人ノ重罪輕罪ノ刑ニ該リタルトキ

三　尉官及ヒ同等軍人ノ重罪ノ刑ニ該リタルトキ

第九十三條　海軍大臣前條ノ具申ヲ受ケタルトキ又ハ高等軍法會議ノ判決將官及ヒ其同等軍人ノ重罪輕罪ノ刑ニ該リ若クハ前條ニ記載シタルモノニ該リタルモノハ意見書ヲ附シ上奏ス可シ

其裁可アリタルトキ高等軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ裁判宣告ノ命令ヲ下シ他ノ軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ長官ニ下付シ長官ヲシテ裁判宣告ノ命令ヲ下サシム可シ

第九十四條　臨戰合闘ノ地ニ於テハ司令官第九十二條ノ例ニ依ラス直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下スコトヲ得

第九十五條　長官軍法會議ノ判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシメ直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下ス權ナキモノハ意見書ヲ附シテ海軍大臣ニ具申ス可シ

第九十六條　海軍大臣高等軍法會議若クハ長官ヨリ具申シタル判決法律ニ違

ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシム可シ

第九十七條　裁判宣告ノ命令アリタルトキハ判士長判士主理錄事列席シ被告人ヲ出廷セシメ判士長其宣告ヲ爲ス可シ

闕席裁判ノ宣告ハ被告人闕席ノママ之ヲ爲ス可シ禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人對審終結ノ後逃走シテ出廷セス若クハ罰金以下ノ刑ニ該リタル被告人呼出ニ應セサルトキモ亦同シ

第九十八條　禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人其宣告ヲ受ケテ逃走シ若クハ前條第二項ニ依リ闕席ノママ宣告アリタルトキハ主理逮捕狀ヲ發ス可シ

逮捕狀執行ノ方法ハ勾引狀執行ノ例ニ從フ若シ其所在分明ナラサルトキハ第五十九條ノ例ニ依ル

第九十九條　被告人闕席ノママ宣告ヲ爲シタルトキハ其宣告書ヲ軍法會議ノ門前ニ掲示シ其一通ヲ被告人ノ住所ニ送達ス可シ

第百條　外國若クハ航海中ニ於テ司令官又ハ艦船長ハ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル下士卒ニ戴罪服務ヲ命スルコトヲ得

戴罪服務ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第七章　再審

第百一條　海軍大臣軍法會議ニ於テ法律ノ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ宣告シ若クハ法律ニ定ムル所ノ刑ヨリ重キ刑ヲ宣告シ若クハ無罪ノ宣告ヲ爲ス可キニ免訴ノ宣告ヲ爲シタルコトアルヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

第百二條　軍法會議ノ宣告左ニ記載シタル條件ニ觸ルルモノアルトキハ主理及ヒ被告人ヨリ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得被告人死去シタルトキハ其親屬之ヲ爲スコトヲ得

一　人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ宣告アリタル後其殺サレタリト認メラレタル者犯罪後現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ

二　同一ノ事件ニ付共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ宣告ヲ受ケタルモノアリタルトキ

三　公正ノ證書ヲ以テ當時犯罪ノ場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ

四　既ニ判決ヲ經タル事件ニ對シ再ヒ判決アリタルトキ

五　被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリタルトキ

六　公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ僞造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ

第百三條　海軍大臣前條ニ記載シタル事實アルコトヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

長官其事實ヲ發見シタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ海軍大臣ニ具申ス可シ

第百四條　再審ノ申訴ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官ニ之ヲ爲ス可シ艦隊軍法會議高等軍法會議合圍地軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ナルトキハ海軍大臣ニ其申訴ヲ爲ス可シ

主理其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ニ原裁判宣告書ノ謄本及ヒ證憑書類ヲ添フ可シ

被告人若クハ其親屬其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ヲ主理ニ出シ主理意見書ヲ添フ可シ

長官再審ノ申訴ヲ受ケタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ之ヲ海軍大臣ニ具申ス可シ

海軍大臣再審ノ申訴若クハ具申ヲ受ケタルトキハ之ヲ再審セシム可シ

第百五條　海軍大臣再審ノ命令ヲ下シタルトキハ刑ノ執行中ニ係ルモノハ其執行ヲ停止ス可シ

第百六條　再審ヲ爲シタル事件前ニ上奏ヲ經タルモノナルトキハ其判決ヲ上奏シテ裁可ヲ請フ可シ

第百七條　（同　上）

第百八條　（同　上）

第百九條　（同　上）

第百十條　（同　上）

第九章　特赦（同　上）

第百十一條　（同　上）

第百十二條　（同　上）

第百十三條　（同　上）

第百十四條　（同　上）

第百十五條　（同　上）

第八章　復權（明治四十一年四月九日法律第四十九號海軍刑法施行法ヲ以テ削除）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル監獄法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十一年三月二十七日

内閣總理大臣 侯爵 西園寺公望

司法大臣 男爵 千家尊福

法律第二十八號

監獄法

第一章 總則

第一條 監獄ハ之ヲ左ノ四種トス

一 懲役監 懲役ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

二 禁錮監 禁錮ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

三 拘留場 拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

四 拘置監 刑事被告人及ヒ死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ拘禁スル所トス

拘置監ニハ懲役、禁錮又ハ拘留ニ處セラレタル者ヲ一時拘禁スルコトヲ得」

警察官署ニ附屬スル留置場ハ之ヲ監獄ニ代用スルコトヲ得但懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ヲ一月以上繼續シテ拘禁スルコトヲ得ス

第二條 二月以上ノ懲役ニ處セラレタル十八歳未滿ノ者ハ特ニ設ケタル監獄又ハ監獄內ニ於テ特ニ分界ヲ設ケタル場所ニ之ヲ拘禁ス

前項ノ規定ニ依ル者ハ滿二十歳ニ至ルマテ又滿二十歳ニ至リタル後三月內

ニ刑期終了ス可キ者ハ其殘刑期間仍ホ繼續シテ之ヲ拘禁スルコトヲ得

心身發育ノ狀況ニ因リ必要ト認ムル者ハ前二項ノ適用ニ付キ年齡ニ拘ハラサルコトヲ得

第三條 監獄ニ男監及ヒ女監ヲ設ケ之ヲ分隔ス

懲役監、禁錮監、拘留場及ヒ拘置監ノ同一區劃內ニ在ルモノハ之ヲ分界ス

第四條 主務大臣ハ少クトモ二年毎ニ一回官吏ヲシテ監獄ヲ巡閱セシム可シ

判事及ヒ檢事ハ監獄ヲ巡視スルコトヲ得

第五條 監獄ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ學術ノ研究其他正當ノ理由アリト認ムル場合ニ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ許スコトヲ得

第六條 本法ニ依リ沒入シ又ハ國庫ニ歸屬シタル物ハ之ヲ監獄慈惠ノ用ニ充ツ

第七條 在監者監獄ノ處置ニ對シ不服アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣又ハ巡閱官吏ニ情願ヲ爲スコトヲ得

第八條 勞役場ハ之ヲ監獄ニ附設ス

前五條ノ規定ハ之ヲ勞役場ニ準用ス

第九條 本法中別段ノ規定アルモノヲ除ク外刑事被告人ニ適用ス可キ規定ハ

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用シ懲役囚ニ適用ス可キ規定ハ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第十條 本法ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ之ヲ適用セス

第二章 收監

第十一條 新ニ入監スル者アルトキハ令狀又ハ判決書及ヒ執行指揮書其他適法ノ文書ヲ査閱シタル後入監セシム可シ

第十二條 新ニ入監スル婦女其子ヲ携帶センコトヲ請フトキハ必要ト認ムル場合ニ限リ滿一歲ニ至ルマテ之ヲ許スコトヲ得

監獄ニ於テ分娩シタル子ニ付テモ亦前項ノ例ニ依ル

第十三條 新ニ入監スル者傳染病豫防法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病ニ罹リタルモノナルトキハ之ヲ入監セシメサルコトヲ得

第十四條 新ニ入監スル者アルトキハ其身體及ヒ衣類ノ檢査ヲ爲ス可シ在監中ノ者ニ付キ必要ト認ムルトキ亦同シ

第三章 拘禁

第十五條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモノヲ除ク外之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得

第十六條 雜居拘禁ニ在テハ在監者ノ罪質、性格、犯數、年齡等ヲ斟酌シテ其監房ヲ別異ス

第一條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ在監者ノ種類ニ依リ其監房ヲ別異ス

十八歲未滿ノ者ハ第二條第二項ノ場合ヲ除ク外十八歲以上ノ者ト其監房ヲ別異ス但心身發育ノ狀況ニ因リ其必要ナシト認ムルトキハ此限ニ在ラス

前三項ノ規定ハ工場ニ於ケル就業ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 刑事被告人ニシテ被告事件ノ相關連スルモノハ互ニ其監房ヲ別異シ監房外ニ於テモ其交通ヲ遮斷ス

第十八條 懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監及ヒ勞役場ノ同一區劃內ニ在ル場合ニ於テハ同性者ニ付キ同一ノ病監又ハ敎誨堂ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ在監者ノ種類ニ因リ監房若クハ座席又ハ診察若クハ敎誨ノ時間ヲ異ニス

病監ニ在テハ第二條及ヒ第十六條ヲ適用セサルコトヲ得

第四章 戒護

第十九條 在監者逃走、暴行若クハ自殺ノ虞アルトキ又ハ監外ニ在ルトキハ戒具ヲ使用スルコトヲ得

戒具ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 法令ニ依リ監獄官吏ノ携帶スル劒又ハ銃ハ左ノ各號ノ一ニ該ル場合ニ限リ在監者ニ對シ之ヲ使用スルコトヲ得

一 人ノ身體ニ對シテ危險ナル暴行ヲ爲シ又ハ爲ス可キ脅迫ヲ加フルトキ

二 危險ナル暴行ノ用ニ供シ得可キ物ヲ所持シ其放棄ヲ肯セサルトキ

三 逃走ノ目的ヲ以テ多衆騷擾スルトキ

四 逃走ヲ企テタル者暴行ヲ爲シテ捕拿ヲ免カレントシ又ハ制止ニ從ハスシテ逃走セントスルトキ

第二十一條 天災事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ在監者ヲシテ應急ノ用務ニ

就カシムルコトヲ得

前項ノ用務ニ就キタル者ニハ第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 天災事變ニ際シ監獄内ニ於テ避難ノ手段ナシト認ムルトキハ在監者ヲ他所ニ護送ス可シ若シ護送スルノ遑ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

解放セラレタル者ハ監獄又ハ警察官署ニ出頭ス可シ解放後二十四時間内ニ出頭セサルトキハ刑法第九十七條ニ依リ處斷ス

第二十三條 在監者逃走シタルトキハ監獄官吏ハ逃走後四十八時間内ニ限リ之ヲ逮捕スルコトヲ得

前項ノ規定ハ刑事訴訟法第六十條ノ適用ヲ妨ケス

第五章 作業

第二十四條 作業ハ衛生、經濟及ヒ在監者ノ刑期、健康、技能、職業、將來ノ生計等ヲ斟酌シテ之ヲ課ス

十八歳未滿ノ者ニ課ス可キ作業ニ付テハ前項ノ外特ニ教養ニ關スル事項ヲ斟酌ス

第二十五條 大祭祝日、一月一日二日及ヒ十二月三十一日ニハ就業ヲ免ス

父母ノ訃ニ接シタル者ハ三日間其就業ヲ免ス

主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時就業ヲ免スルコトヲ得

炊事、洒掃、看護其他監獄ノ經理ニ關シ必要ナル作業ニ就ク者ニ付テハ就業ヲ免セサルコトヲ得

第二十六條 刑事被告人、拘留囚又ハ禁錮囚作業ニ就カンコトヲ請フトキハ其選擇スルモノニ就キ之ヲ許スコトヲ得

第二十七條 作業ノ收入ハ總テ國庫ノ所得トス

在監者ニシテ作業ニ就クモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

作業賞與金ハ行狀、作業ノ成績等ヲ斟酌シテ其額ヲ定ム

第二十八條 在監者就業ニ因リ創傷ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲メニ死亡シ又ハ業務ヲ營ミ難キニ至リタルトキハ情狀ニ因リ手當金ヲ給スルコトヲ得」

前項ノ手當金ハ釋放ノ際本人ニ之ヲ給シ死亡ノ場合ニ於テハ死亡者ノ父、母、配偶者又ハ子ニ之ヲ給ス

第六章　教誨及ヒ教育

第二十九條　受刑者ニハ教誨ヲ施ス可シ其他ノ在監者教誨ヲ請フトキハ之ヲ許スコトヲ得

第三十條　十八歳未滿ノ受刑者ニハ教育ヲ施ス可シ其他ノ受刑者ニシテ特ニ必要アリト認ムルモノニハ年齡ニ拘ハラス教育ヲ施スコトヲ得

第三十一條　在監者文書、圖畫ノ閲讀ヲ請フトキハ之ヲ許ス文書、圖畫ノ閲讀ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章　給養

第三十二條　受刑者ニハ一定ノ衣類臥具ヲ著用セシム但拘留囚ニハ自衣ノ著用ヲ許シ其他ノ者ニハ襯衣ノ自辨ヲ許スコトヲ得

第三十三條　刑事被告人及ヒ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ノ衣類臥具ハ自辨トシ其自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

自辨ノ衣類臥具ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　在監者ニハ其體質、健康、年齡、作業等ヲ斟酌シテ必要ナル糧食及ヒ飲料ヲ給ス

第三十五條　刑事被告人ニハ糧食ノ自辨ヲ許スコトヲ得

第八章　衛生及ヒ醫療

第三十六條　在監者ノ頭髮、鬚髯ハ之ヲ翦剃セシムルコトヲ得但刑事被告人ノ頭髮、鬚髯ハ衛生上特ニ必要アリト認ムル場合ヲ除ク外其意思ニ反シテ之ヲ翦剃セシムルコトヲ得ス

第三十七條　在監者ハ其拘禁セラルル監房ノ清潔ヲ保ツニ必要ナル用務ニ服ス可シ

第三十八條　在監者ニハ其健康ヲ保ツニ必要ナル運動ヲ爲サシム

第三十九條　在監者ニハ種痘其他傳染病豫防ニ必要ト認ムル醫術ヲ行フコトヲ得

第四十條　在監者疾病ニ罹リタルトキハ醫師ヲシテ治療セシメ必要アルトキハ之ヲ病監ニ收容ス

第四十一條　傳染病者ハ嚴ニ之ヲ離隔シ健康者及ヒ他ノ病者ニ接近セシムルコトヲ得ス但懲役囚ヲシテ看護セシムルハ此限ニ在ラス

第四十二條　病者醫師ヲ指定シ自費ヲ以テ治療ヲ補助セシメンコトヲ請フトキハ情狀ニ因リ之ヲ許スコトヲ得

第四十三條　精神病、傳染病其他ノ疾病ニ罹リ監獄ニ在テ適當ノ治療ヲ施スコト能ハスト認ムル病者ハ情狀ニ因リ假ニ之ヲ病院ニ移送スルコトヲ得

前項ニ依リ病院ニ移送シタル者ハ之ヲ在監者ト看做ス

第四十四條　妊婦、産婦、老衰者及ヒ不具者ハ之ヲ病者ニ準スルコトヲ得

第九章　接見及ヒ信書

第四十五條　在監者ニ接見センコトヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス

受刑者ニハ其親族ニ非サル者ト接見ヲ爲サシムルコトヲ得ス但特ニ必要アリト認ムル場合ハ此限ニ在ラス

第四十六條　在監者ニハ信書ヲ發シ又ハ之ヲ受クルコトヲ許ス

受刑者ニハ其親族ニ非サル者ト信書ノ發受ヲ爲サシムルコトヲ得ス但特ニ必要アリト認ムル場合ハ此限ニ在ラス

第四十七條　受刑者ニ係ル信書ニシテ不適當ト認ムルモノハ其發受ヲ許サス」

前項ニ依リ發受ヲ許ササル信書ハ二年ヲ經過シタル後之ヲ廢棄スルコトヲ得

第四十八條　裁判所其他ノ公務所ヨリ在監者ニ宛テタル文書ハ披閲シテ之ヲ本人ニ交付ス

第四十九條　在監者ニ交付シタル信書及ヒ前條ノ文書ハ本人閲讀ノ後之ヲ領置ス

第五十條　接見ノ立會、信書ノ檢閲其他接見及ヒ信書ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十章　領置

第五十一條　在監者ノ携有スル物ハ點檢シテ之ヲ領置ス

保存ノ價値ナク又ハ保存ニ不適當ト認ムル物ハ其領置ヲ爲サス又ハ之ヲ解クコトヲ得

領置ヲ爲サス又ハ之ヲ解キタル物ニ付キ在監者相當ノ處分ヲ爲ササルトキハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第五十二條　在監者領置物ヲ以テ其父、母、配偶者又ハ子ノ扶助其他正當ノ用途ニ充テンコトヲ請フトキハ情狀ニ因リ之ヲ許スコトヲ得

第五十三條 在監者ニ差入ヲ爲サンコトヲ請フ者アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ許スコトヲ得

在監者ニ宛テ送致シ來リタル物ニシテ其差出人ノ氏名若クハ居所不明ナルトキ、其差入ヲ許ス可カラスト認ムルトキ又ハ在監者ニ於テ其受領ヲ拒ミタルトキハ之ヲ沒入又ハ廢棄スルコトヲ得

第五十四條 在監者ノ私ニ所持スル物ハ之ヲ沒入又ハ廢棄スルコトヲ得

第五十五條 領置物ハ釋放ノ際之ヲ交付ス

第五十六條 死亡者ノ遺留物ハ請求ニ因リ相續人、家族又ハ親族ニ之ヲ交付ス

第五十七條 死亡者ノ遺留物ハ死亡ノ日ヨリ一年內ニ前條ニ揭ケタル者ノ請求ナキトキハ國庫ニ歸屬ス

逃走者ノ遺留物ニシテ逃走ノ日ヨリ一年內ニ居所分明セサルトキ亦同シ

第十一章 賞罰

第五十八條 受刑者改悛ノ狀アルトキハ賞遇ヲ爲スコトヲ得

賞遇ノ種類及ヒ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 在監者紀律ニ違ヒタルトキハ懲罰ニ處ス

第六十條 懲罰ハ左ノ如シ

一 叱責
二 賞遇ノ三月以內ノ停止
三 賞遇ノ廢止
四 文書、圖畫閱讀ノ三月以內ノ禁止
五 請願作業ノ十日以內ノ停止
六 自辨ニ係ル衣類臥具著用ノ十五日以內ノ停止
七 糧食自辨ノ十五日以內ノ停止
八 運動ノ五日以內ノ停止
九 作業賞與金計算高ノ一部又ハ全部減削
十 七日以內ノ減食
十一 二月以內ノ輕屏禁
十二 七日以內ノ重屏禁

屏禁ハ受罰者ヲ罰室內ニ晝夜屏居セシメ情狀ニ因リ就業セシメサルコトヲ得重屏禁ニ在テハ仍ホ罰室ヲ暗クシ臥具ヲ禁ス

第一項各號ノ懲罰ハ之ヲ併科スルコトヲ得

第六十一條 前條第一項第十號ノ懲罰ハ刑事被告人及ヒ十八歲未滿ノ在監者ニ之ヲ科セス

第六十二條 懲罰ニ處セラレタル者疾病其他特別ノ事由アルトキハ其懲罰ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

懲罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキハ其懲罰ヲ免除スルコトヲ得

第十二章 釋放

第六十三條 在監者ノ釋放ハ恩赦、職權アル者ノ命令又ハ刑期ノ終了ニ因リ關係文書ヲ査閲シテ其手續ヲ爲ス可シ

第六十四條 恩赦ヲ受ケ又ハ假出獄若クハ假出場ヲ許サレタル者ハ其裁可狀又ハ許可書ノ監獄ニ達シタル後二十四時間內ニ之ヲ釋放ス

第六十五條 前條ノ場合ヲ除ク外命令ニ因リ釋放ヲ爲ス可キ者ハ命令書ノ監獄ニ達シタル後十時間內ニ之ヲ釋放ス

第六十六條 假出獄又ハ假出場ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ之ニ證票ヲ交付ス

第六十七條 假出獄ヲ許サレタル者ハ其期間左ノ規定ヲ遵守ス可シ

一 正業ニ就キ善行ヲ保ツコト

二 警察官署ノ監督ヲ受クルコト但警察官署ハ監獄ノ意見ヲ聽キ他ニ其監督ヲ委任スルコトヲ得

三 住居ヲ轉移シ又ハ十日以上旅行ヲ爲サントスルトキハ監督者ノ許可ヲ請フコト

主務大臣ハ假出獄ヲ許サレタル者ノ帝國外ニ旅行ヲ爲スヲ許スコトヲ得、

第六十八條 滿期ノ者ハ其刑期終了ノ翌日午後六時マテニ之ヲ釋放ス

第六十九條 釋放セラル可キ者重キ疾病ニ罹リ監獄ニ於テ醫療中ナルトキハ其請求ニ因リ仍ホ在監セシムルコトヲ得

第七十條 釋放セラル可キ者歸住旅費若クハ相當ノ衣類ヲ有セサルトキ又ハ監獄行政ノ便宜ニ因リ移監セシメタルカ爲メ歸住旅費ノ增加ヲ要スルニ至リタルトキハ衣類又ハ旅費ヲ給與スルコトヲ得

第十三章 死亡

第七十一條 死刑ノ執行ハ監獄內ノ刑場ニ於テ之ヲ爲ス

大祭祝日、一月一日二日及ヒ十二月三十一日ニハ死刑ヲ執行セス

第七十二條　死刑ヲ執行スルトキハ絞首ノ後死相ヲ檢シ仍ホ五分時ヲ經ルニ非サレハ絞繩ヲ解クコトヲ得ス

第七十三條　在監者死亡シタルトキハ之ヲ假葬ス

死體ハ必要ト認ムルトキハ之ヲ火葬スルコトヲ得

死體又ハ遺骨ハ假葬後二年ヲ經テ之ヲ合葬スルコトヲ得

第七十四條　死亡者ノ親族故舊ニシテ死體又ハ遺骨ヲ請フ者アルトキハ何時ニテモ之ヲ交付スルコトヲ得但合葬後ハ此限ニ在ラス

第七十五條　受刑者ノ死體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ解剖ノ爲メ病院、學校又ハ其他ノ公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得

附則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

監獄則ハ之ヲ廢止ス但懲治人ニ關スル規定ハ當分ノ內仍ホ其效力ヲ有ス

監獄法施行規則

（明治四十一年六月十六日司法省令第十八號）

第一章　總則

第一條　逃亡犯罪人引渡條例ニ依リ拘禁ス可キ者ハ之ヲ拘置監ニ拘禁ス

外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法ニ依リ監獄ニ拘禁シタル者ハ刑事被告人ニ準ス

第二條　監獄ノ參觀ハ男子ニハ男監、女子ニハ女監ニ限リ之ヲ許ス但司法大臣ヨリ特別ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

未成年者ニハ監獄ノ參觀ヲ許サス

外國人監獄ヲ參觀スルニハ司法大臣ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第三條　監獄ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ典獄ハ其氏名、身分、職業、住所、年齡及ヒ參觀ノ目的ヲ調査シ許可ヲ與ヘタル者ニハ參觀者心得事項ヲ告知ス可シ

第四條　司法大臣ニ情願ヲ爲スニハ其旨趣ヲ記載シタル書面ヲ差出スコトヲ

要ス

情願書ハ本人ヲシテ之ヲ封緘セシメ監獄官吏ハ之ヲ披閲スルコトヲ得ス

情願書ヲ差出シタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ司法大臣ニ進達ス可シ

第五條　巡閲官吏ニハ書面又ハ口頭ヲ以テ情願ヲ爲スコトヲ得

巡閲官吏ニ情願ヲ爲サンコトヲ豫告スル者アルトキハ典獄ハ其者ノ氏名ヲ情願簿ニ記載シ置ク可シ

前條第二項ノ規定ハ本條ノ情願書ニ之ヲ適用ス

第六條　巡閲官吏情願ヲ聽クニハ必要アル場合ヲ除ク外監獄官吏ヲシテ之ニ立會ハシム可カラス

第七條　巡閲官吏情願ヲ審査シタルトキハ自ラ裁決ヲ爲シ又ハ司法大臣ノ裁決ヲ乞フコトヲ得

巡閲官吏自ラ裁決ヲ爲シタルトキハ情願簿ニ其要旨ヲ記載ス可シ

第八條　情願ニ對スル裁決ハ典獄速ニ之ヲ本人ニ告知ス可シ

第九條　典獄ハ毎週一回以上面接日ヲ定メ監獄ノ處置又ハ一身ノ事情ニ付キ申立ヲ爲サンコトヲ請フ在監者ニ面接ス可シ

前項ノ申立ヲ爲サンコトヲ豫告スル者アルトキハ其氏名ヲ面會簿ニ記載シ置キ其順序ニ從ヒ面接シタル後本人ニ開示シタル意見ノ要旨ヲ面會簿ニ記載ス可シ

第十條　本則中別段ノ規定アルモノヲ除ク外懲役囚ニ適用ス可キ規定ハ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第二章　收監

第十一條　新ニ入監スル者ヲ領收シタルトキハ入監者ノ氏名、領收ノ年月日時及ヒ領收官吏ノ氏名ヲ記載シタル領收書ヲ護送者ニ交付ス可シ

第十二條　新ニ入監スル婦女ニ子ノ携帶ヲ許サヽル場合ニ於テ相當ノ引取人ナキトキハ其子ヲ監獄所在地ノ市區町村役場ニ引渡ス可シ

携帶ヲ許シタル子カ滿一歳ニ達シ又ハ他ニ在監ヲ許ス可カラサル事情アル場合ニ於テ相當ノ引取人ナキトキハ監獄醫其健康ヲ診査ス可シ

第十三條　新ニ入監スル者アルトキハ傳染病者ノ收容ニ適當ノ設備アルトキハ傳染病豫防法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病ニ罹ル者ト雖モ之ヲ入監セシム可シ

第十四條　監獄ニ於テ避病監其他傳染病者ノ收容ニ適當ノ設備アルトキハ傳

第十五條 監獄法第十三條ニ依リ入監セシメサル場合ニ於テハ直ニ其旨ヲ入監ヲ指揮シタル官廳及ヒ監獄所在地ノ警察官署ニ通報シ仍ホ其事情ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第十六條 新ニ入監スル者刑事訴訟法第三百十九條第二項各號ニ該當スルモノト認ムルトキハ之ヲ入監セシメタル上監獄醫ノ診斷書ヲ添ヘ直ニ其旨ヲ檢事ニ通報ス可シ

前項ノ規定ハ在監中ノ者ニ之ヲ準用ス

第十七條 新ニ入監スル者アルトキハ疾病其他已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外入浴ヲ爲サシム可シ

婦女ノ入浴ニハ女監取締之ニ立會ヒ婦女ノ身體及ヒ衣類ノ檢査ハ女監取締之ヲ爲ス可シ

前項ノ規定ハ在監中ノ婦女ノ入浴及ヒ身體衣類ノ檢査ニ之ヲ準用ス

第十八條 入監者ニハ番號ヲ付シ在監中其番號票ヲ上衣ノ襟又ハ胸部ニ附著セシム可シ但本人監外ニ在ル間ハ番號票ヲ除去セシムルコトヲ得

第十九條 典獄ハ在監者ノ遵守スヘキ事項竝ニ刑期ノ起算及ヒ終了ノ日ヲ入監者ニ告知ス可シ

典獄ハ入監者ノ身上ニ關スル事情ヲ調査シ其結果ヲ身上票ニ記載ス可シ

前項ノ調査ヲ爲スニ付キ必要アリト認ムルトキハ裁判所、警察官署、市區町村役場又ハ本人ニ緣故アル者ニ照會ヲ爲ス可シ

第二十條 典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ入監者ノ撮影ヲ爲ス可シ在監中ノ者ニ付キ亦同シ

第二十一條 新ニ入監シタル者ハ疾病其他已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外三日以內之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

前項ノ受刑者ニハ文書圖畫ノ閱讀ヲ許サス懲役囚ニハ作業ヲ課セサルコトヲ得

第二十二條 入監者ノ身分帳簿、名籍原簿、在監人人名簿及放免曆簿ハ收監後三日以內ニ整理シ必要ナル事項ヲ記載ス可シ

在監者遵守事項ハ冊子トシテ之ヲ監房內ニ備ヘ置ク可シ

第三章 拘禁

第二十三條 獨居拘禁ニ付セラレタル者ハ他ノ在監者ト交通ヲ遮斷シ召喚、運動、入浴、接見、敎誨、診療又ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外常ニ一房ノ

内ニ獨居セシム可シ

第二十四條　刑事被告人ハ成ル可ク之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

第二十五條　受刑者ハ本則ニ於テ特ニ規定アル場合ヲ除ク外左ノ順序ニ從ヒ之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

一　刑期二月未滿ノ者

二　二十五歲未滿ノ者

三　初犯ノ者

四　入監後二月ヲ經過セサル者

餘罪又ハ刑期限内ノ犯罪ニ因リ審問中ニ在ル受刑者ハ成ル可ク之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

獨居監房ニ殘餘アルトキハ前二項ニ該當セサル受刑者ト雖モ之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得、

第二十六條　在監者ノ精神又ハ身體ニ害アリト認ムルトキハ在監者ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得ス

第二十七條　獨居拘禁ノ期間ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ス但特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ爾後六月毎ニ其期間ヲ更新スルコトヲ妨ケス

十八歲未滿ノ者ハ特ニ必要アリト認メタル場合ヲ除ク外六月以上繼續シテ之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得ス

第二十八條　典獄及ヒ監獄醫ハ少クトモ三十日毎ニ一回、其他ノ監獄官吏ハ毎日數次獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ヲ巡視ス可シ

第二十九條　典獄、監獄醫、教誨師及ヒ女監取締ヲ除ク外監獄官吏ハ單獨ニテ獨居拘禁ニ付セラレタル婦女ヲ巡視スルコトヲ得ス夜間獨居監房ニ拘禁セラレタル婦女ノ巡視ニ付キ亦同シ

第三十條　獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ヲ巡視シタル監獄官吏ハ其視察シタル事項ヲ典獄ニ報告ス可シ

第三十一條　第二十五條第一項及ヒ第二項ニ掲ケタル受刑者ニシテ監房不足ノ爲メ獨居拘禁ニ付スルコト能ハサルモノ及ヒ獨居拘禁ノ期間滿了後必要アリト認ムルモノハ之ヲ夜間獨居監房ニ拘禁ス可シ

第二十五條第三項ノ規定ハ夜間獨居監房ニ之ヲ準用ス

第三十二條　夜間獨居監房ニ拘禁セラレタル者作業ニ就カサルトキハ晝間ト雖モ仍ホ在房セシム可シ

第三十三條　勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ト受刑者トハ之ヲ同一ノ監房又

ハ工場ニ雜居セシムルコトヲ得ス

第三十四條　病者又ハ不具者ト健康者トハ之ヲ同一監房ニ拘禁スルコトヲ得ス但看護ニ從事スルモノハ此限ニ在ラス

第三十五條　雜居監房ニハ三人以上ヲ拘禁ス可シ但療養其他已ムコトヲ得サル場合ハ此限ニ在ラス

第三十六條　雜居監房、工場、教場及ヒ教誨堂ニ於テハ在監者ノ席次ヲ定メ交談ヲ禁止ス可シ

第三十七條　監房ニハ疊ヲ敷クコトヲ得ス但拘留監、女監及病監ハ此限ニ在ラス

第三十八條　雜居監房ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外之ヲ工場ニ代用スルコトヲ得ス

第三十九條　監房ノ前ニハ小札ヲ掲ケ其上部ニ在房者ノ氏名、年齡、罪質、刑名、刑期、留置期間及ヒ犯數其下部ニ番號及ヒ入監ノ年月日ヲ記載シ上部ハ之ヲ蔽掩シ置ク可シ

第四十條　雜居監房ニハ其容積、定員及ヒ現在人員ヲ記載シタル小札ヲ掲ク可シ

第四章　戒護

第四十一條　監獄ニ於テハ出入ノ警戒ヲ嚴ニシ必要アリト認ムルトキハ出入者ノ携帶品ヲ檢査ス可シ

開監前閉監後ハ典獄ノ許可アルニ非サレハ監獄官吏以外ノ者ヲ出入セシムルコトヲ得ス

第四十二條　監獄ノ外門、各出入口、監房、工場及ヒ現ニ在監者ヲ拘禁スル場所ハ之ヲ閉鎖シ置ク可シ若シ必要ニ因リ一時開放スルトキハ其要所ヲ守衛ス可シ

鑰匙ハ一定ノ監獄官吏之ヲ保管シ必要アル場合ニ非サレハ其授受ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條　監獄官吏ハ典獄ノ命令アルニ非サレハ他ノ監獄官吏ノ立會ナクシテ監房ヲ開扉シ又ハ在監者ヲ出房セシムルコトヲ得ス但病監ニ在リテハ此限ニ在ラス

第四十四條　監獄ノ構內ニ於テハ常ニ視察ノ便ヲ計リ觀望ヲ妨ケ其他戒護ノ障礙ト爲ル可キ物ヲ置ク可カラス

已ムコトヲ得サル場合ニ於テ梯子其他攀越ノ用ニ供シ得可キ物ヲ構内ニ置クトキハ之ニ鎖鑰ヲ施ス可シ

第四十五條 典獄ハ監獄官吏ヲシテ少クトモ毎日一回監房ノ檢査ヲ爲サシム可シ

第四十六條 典獄ハ監獄官吏ヲシテ工場又ハ監外ヨリ還房スル在監者ノ身體及ヒ衣類ノ檢査ヲ爲サシム可シ

第四十七條 在監者ニシテ戒護ノ爲メ離隔ノ必要アルモノハ之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

第四十八條 戒具ハ左ノ五種トス

一 窄衣
二 釵
三 手錠
四 聯鎖
五 捕繩

釵ヲ使用スルニハ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ之ニ貫キ腰間ニ繚帶セシメ繚帶ノ所ニ下鍵ス

聯鎖ヲ使用スルニハ之ヲ腰間ニ繚帶セシメ繚帶ノ所ニ下鍵シ二人毎ニ連絆ス

第四十九條 戒具ハ典獄ノ命令アルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十條 窄衣ハ危險ナル暴行ヲ爲ス懲役囚、釵ハ逃走又ハ暴行ノ虞アル懲役囚、手錠及ヒ捕繩ハ暴行、逃走若クハ自殺ノ虞アル在監者又ハ護送中ノ在監者、聯鎖ハ監外ノ作業ニ就ク懲役囚ニシテ必要アリト認ムル者ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

窄衣ハ六時間以上、兩脚施釵ハ六月以上、一脚施釵ハ一年以上繼續シテ之ヲ使用スルコトヲ得ス

護送中ノ者ニハ窄衣及ヒ釵ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十一條 監獄官吏在監者ニ對シテ劍又ハ銃ヲ使用シタルトキハ典獄ハ直ニ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第五十二條 典獄ハ刑期一年以上ノ懲役囚ニシテ刑期ノ半ヲ經過シタル者ノ中ニ就キ豫メ消防ノ用務ニ就カシム可キモノヲ指定スルコトヲ得

第五十三條 監獄法第二十二條ニ依リ在監者ヲ解放スルトキハ出頭ス可キ期間及ヒ場所ヲ告知ス可シ

第五十四條　在監者ヲ他所ニ護送ス可キ場合ニ於テハ監獄醫ヲシテ之ヲ診斷セシメ健康ニ害アリト認ムルトキハ其護送ヲ停止ス可シ

護送ヲ停止シタルトキハ其旨ヲ關係官廳ニ通報ス可シ

第五十五條　護送中ハ男女ヲ同行セシム可カラス刑事被告人ニシテ被告事件ノ相關連スルモノ亦同シ

刑事被告人及ヒ十八歳未滿ノ者ハ護送ノ際他ノ在監者ト區分ス可シ

第五十六條　在監者逃走シタルトキハ典獄ハ速ニ監獄所在地及ヒ其附近竝ニ逃走者ノ立寄ル可キ見込アル地方ノ警察官署ニ逃走者ノ人相書ヲ添ヘ逃走ノ事實ヲ通報ス可シ

第五十七條　前條ノ場合ニ於テハ典獄ハ其事實ヲ司法大臣ニ申報ス可シ逃走者ヲ逮捕シタルトキ亦同シ

逃走者刑事被告人ナルトキハ前項ノ報告ヲ爲ス外逃走及ヒ逮捕ノ事實ヲ檢事ニ通報ス可シ

第五章　作業

第五十八條　在監者ノ作業時間ハ左ノ如シ

一　十二月　七時間
　　十一月
　　三月　九時間
　　十九月
　　六月　十一時間
　　七月

二　十一月　八時間
　　十二月
　　四月　十時間
　　五月
　　八月

作業時間ハ地方ノ狀況、監獄ノ構造又ハ作業ノ稱類ニ因リ司法大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ伸縮スルコトヲ得

請求ニ因リ作業ニ就ク者ノ作業時間ハ二時間以內短縮スルコトヲ得

第五十九條　作業ノ種類ハ司法大臣ノ認可ヲ受ク可シ

教育、教誨及ヒ運動ニ要スル時間ハ之ヲ作業時間ニ通算スルコトヲ得

第六十條　在監者ニ課スル作業ハ其種類及ヒ一日ノ科程ヲ指定シ之ヲ本人ニ告知ス可シ

第六十一條　作業科程ハ普通一人ノ仕上高及ヒ第五十八條第一項ノ作業時間ヲ標準トシテ等一ニ之ヲ定ム可シ

仕上高ヲ標準トスルコト能ハサル作業ニ付テハ第五十八條第一項ノ作業時間ヲ以テ作業科程トス

十八歳未滿ノ受刑者、老者、病弱者及ヒ不具者ハ前二項ニ依ラス各就業者ニ

付キ相當ノ作業科程ヲ定ムルコトヲ得

第六十二條 作業時間ノ全部ヲ通シテ就業セシムルコト能ハサル作業ハ之ヲ他ノ作業ト併課スルコトヲ得

第六十三條 一日ノ作業科程ヲ終了シタル者ト雖モ作業時間内ハ繼續シテ作業ニ就カシム可シ

第六十四條 請求ニ因リ作業ニ就ク者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其作業ヲ中止シ若クハ之ヲ廢止シ又ハ作業ノ種類ヲ變更スルコトヲ得ス

第六十五條 典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ在監者ヲ受負作業ニ就カシムルコトヲ得

第六十六條 刑事被告人ハ之ヲ監外ノ作業ニ就カシムルコトヲ得ス

刑期六月ニ滿タス又ハ受刑後三月ヲ經過セサル受刑者ハ司法大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ監外ノ作業ニ就カシムルコトヲ得ス但十八歳未滿ノ受刑者ヲ監外ノ農業ニ就カシムルハ此限ニ在ラス

第六十七條 典獄ハ監獄官吏ヲシテ毎日一回各就業者ニ就キ作業ノ成績ヲ檢査セシム可シ

第六十八條 仕上高ハ毎月末日ニ其月分ヲ積算シ一日ノ平均高ト一日ノ科程

トヲ對照シ作業科程ノ了否ヲ定ム可シ

第六十一條第二項ノ作業ニ付テハ一月毎ニ其就業時間ヲ積算シ前項ノ例ニ依リ作業科程ノ了否ヲ定ム可シ

第六十九條 前條ニ依リ作業科程ノ了否ヲ定メタルトキハ作業賞與金ノ計算ヲ爲ス可シ

第七十條 左ニ掲クル者ニハ作業賞與金ノ計算ヲ爲サス

一 累犯ノ懲役囚ニシテ入監後三月ヲ經過セサルモノ

二 監獄法第六十條第六號乃至第八號及ヒ第十號乃至第十二號ノ懲罰ニ處セラレ其執行中ニ在ル者

三 就業三十日ニ滿タサル者

四 釋放ノ月ニ於ケル就業日ノ全部ヲ通シ就業セサル者

第七十一條 作業賞與金計算高ハ各就業者ノ成績ヲ普通ノ傭工錢ニ見積リ行狀、犯數及ヒ作業科程ノ了否ヲ斟酌シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム可シ

一 刑事被告人、拘留囚及ヒ禁錮囚ハ見積額ノ十分ノ四乃至十分ノ七

二 懲役囚ハ見積額ノ十分ノ一乃至十分ノ四

第七十二條 監獄法第二十五條第四項ニ依リ作業ニ就キタル者ニハ就業ノ當

日ニ限リ前條ニ掲ケタル割合ノ外見積額ノ十分ノ三以内ヲ増加スルコトヲ得

第七十三條　在監者惡意又ハ重過失ニ因リ器具、製品、素品其他ノ物ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其賠償ニ相當スル金額ヲ作業賞與金計算高ノ内ヨリ控除スルコトヲ得

第七十四條　就業者ニハ毎月十五日マテニ前月分ノ作業賞與金計算高ヲ告知ス可シ

第七十五條　作業賞與金ハ就業者釋放ノ際之ヲ給與ス可シ

第七十六條　十圓以上ノ作業賞與金計算高ヲ有スル受刑者其父、母、妻若クハ子ノ扶助、犯罪被害者ニ對スル賠償又ハ書籍ノ購求ヲ爲ス必要アル場合ニ於テハ情狀ニ因リ在監中ト雖モ作業賞與金計算高ノ三分ノ一ヲ超エサル金額ヲ給スルコトヲ得

受刑者ノ爲メ特ニ必要アリト認ム可キ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ラス之ニ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

第七十七條　作業賞與金計算高ヲ有スル刑事被告人其父、母、妻又ハ子ノ扶助其他正當ノ費用ヲ要スル場合ニ於テハ情狀ニ因リ在監中ト雖モ之ニ作業賞

與金ヲ給スルコトヲ得

第七十八條　作業賞與金計算高ヲ有スル在監者逃走後六月内ニ其居所分明セサルトキハ其計算高ヲ抹消ス可シ

第七十九條　監獄法第二十一條及ヒ第二十八條ニ依リ手當金ヲ給ス可キ情狀アリト認ムルトキハ典獄ハ調査書類ヲ添ヘ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

第六章　教誨及ヒ教育

第八十條　教誨ハ休業日又ハ日曜日ニ於テ之ヲ爲ス可シ

必要アリト認ムルトキハ典獄ハ休業日又ハ日曜日以外ノ日ニ於テモ教誨ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十一條　病監又ハ獨居監房ニ拘禁スル受刑者及ヒ刑事被告人ニハ其居所ニ就キ教誨ヲ爲ス可シ

第八十二條　受刑者父母ノ訃ニ接シ就業ヲ免セラレタルトキハ之ヲ獨居拘禁ニ付シ毎日教誨ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ本人ノ希望ニ因リ其亡父母ノ爲メ讀經ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十三條 恩赦、假出獄若クハ假出場ノ申渡ヲ爲シ又ハ賞表ヲ付與スルトキハ其式場ニ受刑者ノ全部又ハ一部ヲ集メテ敎誨ヲ爲ス可シ

第八十四條 受刑者死亡シタルトキハ本人ト緣故アル受刑者ヲ集メ棺前ニ於テ敎誨ヲ爲ス可シ

第八十五條 監獄法第三十條ニ依リ敎育ヲ施ス受刑者ニハ毎日四時間以內小學程度ニ依リ修身、讀書、算術、習字其他必要ノ學科ヲ敎授ス可シ

前項ノ受刑者ニシテ小學科程ヲ卒業シタルモノ又ハ之ト同等ノ學力アルモノニハ其敎育ノ程度ニ應シ毎日二時間以內相當ノ補習學科ヲ敎授ス可シ

第八十六條 文書圖畫ノ閱讀ハ監獄ノ紀律ニ害ナキモノニ限リ之ヲ許ス

新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記載スルモノハ其閱讀ヲ許サス

第八十七條 雜居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ同時ニ三箇以上ノ文書圖畫ヲ閱讀セシムルコトヲ得ス但字書ハ必要ニ因リ其冊數ヲ增加スルコトヲ得

第八十八條 獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ情狀ニ因リ其監房內ニ於テ自辨ニ係ル筆墨紙ノ使用ヲ許スコトヲ得

第七章 給養

第八十九條 在監者ノ使用ニ供スル衣類臥具及ヒ雜具ノ品目ハ左ノ如シ

衣類

一 單衣
二 袷
三 綿入
四 襯衣
五 帶
六 褌
七 股引

婦女ニハ股引ニ代ヘ前垂ヲ用ヰシム

臥具

一 蒲團又ハ毛布
二 敷布
三 枕
四 蚊帳

雜具

一　手巾
二　雨具
三　冠物
四　履物

股引又ハ前垂ハ作業ニ就ク者ニ限リ之ヲ交付ス

用紙ハ之ヲ給與ス

典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ雜具ノ品目ヲ增加スルコトヲ得

第九十條　在監者ノ使用ニ供スル衣類臥具及ヒ雜具ノ數ハ一人ニ付キ一箇トス但蚊帳ハ此限ニ在ラス

作業ニ就ク者ニハ別ニ作業衣一組ヲ交付ス

用紙ノ數量ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ定ム

病者ノ使用ニ供スル衣類臥具及ヒ雜具ノ數ハ必要ニ因リ之ヲ增減スルコトヲ得

已ムコトヲ得サル事情アルトキハ典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ第一項及ヒ第二項ニ定メタル箇數ヲ增減スルコトヲ得

第九十一條　受刑者ニ著用セシムル衣類ハ赭色トス

左ニ掲クル衣類臥具ハ淺葱色トス

一　刑事被告人ニ貸與スル衣類

二　勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ貸與スル衣類

三　十八歲未滿ノ受刑者ニ著用セシムル衣類

四　蒲團

第九十二條　自辨ノ衣類臥具ハ時季ニ適シ且ツ監獄ノ紀律及ヒ衞生ニ害ナキ物ニ限ル

自辨ノ衣類臥具ノ品目及ヒ箇數ハ典獄之ヲ定ム

第九十三條　自辨ノ衣類臥具ハ時々之ヲ交換、補綴又ハ澣濯セシム可シ

監獄ニ於テ自辨ノ衣類臥具ヲ補綴又ハ澣濯シタルトキハ其費用ハ本人ノ負擔トス

第九十四條　在監者ニ給與スル糧食ノ種類及ヒ分量ハ左ノ如シ

一　飯（下白米十分ノ四　麥十分ノ六）　一人一回三合以下

二　菜　一人一日五錢以下

地方ノ狀況若クハ物價ノ高低ニ因リ又ハ在監者ノ健康保全ノ爲メ必要アル

トキハ典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ糧食ノ種類ヲ變更スルコトヲ得

作業ノ種類ニ因リ必要アルトキハ典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ飯ノ分量ヲ增加スルコトヲ得

第九十五條　在監者ニ給與スル飲料ハ白湯ヲ用ウ但必要アルトキハ麥湯又ハ茶ヲ用ウルコトヲ得

第九十六條　在監者ニハ酒類又ハ煙草ヲ用ウルコトヲ許サス

第九十七條　病者ノ糧食及ヒ飲料ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ定ムルコトヲ得

第九十八條　自辨糧食ノ種類及ヒ分量ハ典獄之ヲ定ム

第九十九條　自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者不正ノ行爲アリト認ムルトキハ典獄ハ其者ノ出入ヲ禁止ス可シ

典獄ハ必要ニ因リ自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者ヲ指名スルコトヲ得

第百條　自辨糧食ハ監獄官吏立會ノ上監獄醫其檢査ヲ爲ス可シ

第百一條　雜居拘禁ニ付セラレタル者ノ自辨糧食ハ成ル可ク一定ノ場所ニ於テ之ヲ用ヰシム可シ

第八章　衛生及ヒ醫療

第百二條　監獄ニ於テハ清潔ヲ旨トシ衣類臥具及ヒ雜具ハ期限ヲ定メ蒸汽其他適當ノ方法ヲ用ヰテ之ヲ清淨ナラシム可シ

第百三條　受刑者ノ頭髮ハ少クトモ一月毎ニ一回、鬚髯ハ少クトモ十日毎ニ一回之ヲ翦剃セシム可シ但特別ノ事情アル者ニ付テハ此限ニ在ラス

婦女ノ頭髮ハ必要アル場合ヲ除ク外之ヲ翦剃セシムルコトヲ得ス

第百四條　頭髮鬚髯ヲ翦剃セシメサル場合ニ於テハ常ニ之ヲ梳理セシム可シ」

婦女ニハ膏油ノ使用ヲ許スコトヲ得

第百五條　在監者ノ入浴ノ度數ハ作業ノ種類及ヒ其他ノ事情ヲ斟酌シテ典獄之ヲ定ム但六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一回、十月ヨリ五月マテハ七日毎ニ一回ヲ下ルコトヲ得ス

第百六條　在監者ニハ雨天ノ外毎日三十分以內戶外ニ於テ運動ヲ爲サシム可シ但作業ノ種類ニ因リ運動ノ必要ナシト認ム可キ者ニ付テハ此限ニ在ラス」

前項ノ運動時間ハ獨居拘禁ニ付セラレタル者ニ限リ一時間以內ニ伸長スルコトヲ得

受刑者ニハ戶外運動トシテ體操ヲ爲サシムルコトヲ得

第百七條　獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニシテ十八歲未滿ノモノハ少クト

モ三十日毎ニ一回、其他ノモノハ少クトモ三月毎ニ一回、雜居拘禁ニ付セラレタル受刑者ニシテ刑期一年以上ノモノハ少クトモ六月毎ニ一回監獄醫ヲシテ健康診斷ヲ爲サシム可シ

第百八條 十八歲未滿ノ者ハ其他ノ者ト治療ノ時間及ヒ病監ニ於ケル居室ヲ異ニス可シ

第百九條 獨居拘禁ニ付セラレタル者疾病ニ罹リタルトキハ病監ニ移ス必要アル場合ヲ除ク外其監房ニ於テ治療セシメ病監ニ移シタルトキハ成ル可ク病監內ノ獨居監房ニ拘禁ス可シ

第百十條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防ヲ嚴ニシ流行地ヲ發シ又其地方ヲ經過シタル入監者ハ一週日以上他ノ者ト離隔シ其携帶物ニハ消毒方法ヲ行フ可シ

第百十一條 傳染病豫防ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ在監者ニ種痘又ハ血精注射ヲ施スコトヲ得

第百十二條 傳染病流行ノ際ニハ飲食物ノ差入及ヒ購求ヲ停止スルコトヲ得

第百十三條 在監者傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ嚴ニ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ監獄所在地ノ市區町村役場及ヒ警察官署ニ其事實ヲ通報ス可シ

第百十四條 監獄法第四十三條ニ依リ在監者ヲ病院ニ移送ス可キトキハ典獄ハ監獄醫ノ診斷書及ヒ移送ス可キ病院トノ協議書ヲ添ヘ司法大臣ノ認可ヲ受ク可シ

第百十五條 在監者ヲ病院ニ移送シタルトキハ典獄ハ監獄官吏ヲシテ毎日其狀況ヲ視察セシム可シ

第百十六條 病院ニ移送シタル者在院ノ必要ナキニ至リタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ還送セシメ司法大臣ニ其旨ヲ申報ス可シ

第百十七條 治療ノ爲メ特ニ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ監獄醫ニ非サル醫師ヲシテ治療ヲ補助セシムルコトヲ得

分娩ノ際必要アリト認ムルトキハ典獄ハ產婆ヲ付スルコトヲ得

第百十八條 在監者ノ疾病危篤ナルトキハ其旨ヲ本人ノ家族又ハ親族ニ通知シ刑事被告人ナルトキハ仍ホ檢事ニ通報ス可シ

第百十九條 姙婦ハ受胎後七月以上ノ者產婦ハ分娩後一月ヲ經過セサル者ニ限リ之ヲ病者ニ準スルコトヲ得

第九章　接見及ヒ信書

第百二十條　十四歳未滿ノ者ニハ在監者ト接見ヲ爲スコトヲ許サス

第百二十一條　接見ノ時間ハ三十分以内トス但辯護人トノ接見ハ此限ニ在ラス

第百二十二條　接見ハ執務時間内ニ非サレハ之ヲ許サス

第百二十三條　接見ノ度數ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ一回、禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ一回、懲役囚ニ付テハ二月毎ニ一回トス

第百二十四條　典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前四條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百二十五條　在監者ニ接見センコトヲ請フ者アルトキハ其氏名、身分、職業、住所、年齡、在監者トノ續柄及ヒ面談ノ要旨ヲ聞取リ許可ヲ與ヘタル者ニハ接見者心得事項ヲ告知ス可シ

接見センコトヲ請フ者辯護人ナルトキハ其氏名、職業及ヒ住所ノミヲ聞取リ裁判所ノ允許ヲ得テ辯護人ト爲リタル者ニハ仍ホ其旨ヲ證明セシム可シ

第百二十六條　接見ハ接見室ニ於テ之ヲ爲サシム可シ

在監者疾病ノ爲メ接見室ニ赴クコト能ハサルトキハ其居所ニ於テ接見ヲ爲サシムルコトヲ得

第百二十七條　接見ニハ典獄官吏之ニ立會フ可シ

第百二十八條　外國語ハ典獄ノ許可アルニ非サレハ接見ノ際之ヲ使用スルコトヲ得ス

第百二十九條　受刑者ノ發受スル信書ノ數ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ各一通、禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ各一通、懲役囚ニ付テハ二月毎ニ各一通ヲ超ユルコトヲ得ス

典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百三十條　在監者ノ發受スル信書ハ典獄之ヲ檢閲ス可シ

發信ハ封緘ヲ爲サスシテ之ヲ典獄ニ差出サシメ受信ハ典獄之ヲ開披シ檢印ヲ押捺ス可シ

第百三十一條　外國文ヲ用ヰタル信書ハ檢閲ノ爲メ在監者ノ費用ヲ以テ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

在監者前項ノ費用ヲ負擔スル資力ナク又ハ其負擔ヲ肯セサルトキハ信書ノ

發受ヲ許ササルコトヲ得

第百三十二條 受刑者ノ發送スル信書ハ急速ヲ要スル場合ヲ除ク外日曜日、休業日又ハ休憩時間內ニ非サレハ之ヲ作成セシムルコトヲ得ス

第百三十三條 在監者信書ヲ自書スルコト能ハサルトキハ本人ノ求ニ因リ監獄官吏之ヲ代書ス可シ

第百三十四條 在監者ノ發送スル信書ノ郵便稅ハ自辨トス裁判所其他公務所ニ對シ返信ヲ要スル場合ニ於テ郵便稅ヲ自辨スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ支辨ス可シ

書信用紙及ヒ封筒ハ監獄ニ於テ之ヲ給與スルコトヲ得

第百三十五條 在監者ニ交付シタル信書及ヒ其他ノ文書ハ必要ニ因リ十日以內本人ノ手ニ留置セシムルコトヲ得

第百三十六條 信書ノ撿閱、發送及ヒ交付ノ手續ハ成ル可ク速ニ之ヲ爲ス可シ

第百三十七條 信書ノ發送、交付及ヒ廢棄ノ年月日ハ之ヲ本人ノ身分帳簿ニ記載ス可シ

第百三十八條 第百二十九條ニ定メタル度數ヲ超エタル信書ニシテ發信ニ係

ルモノハ直ニ之ヲ本人ニ返付シ其受信ニ係ルモノハ假リニ身分帳簿ニ添附シ置キ次ノ期間ニ於テ順次之ヲ本人ニ交付ス可シ

監獄法第四十七條第一項ニ依リ發受ヲ許ササル信書ハ身分帳簿ニ添付シ置キ廢棄ス可キモノヲ除ク外釋放ノ際之ヲ本人ニ交付ス可シ

第百三十九條 接見ノ立會及ヒ信書ノ檢閱ノ際行刑上參考ト爲ル可キ事項ヲ發見シタルトキハ其要旨ヲ本人ノ身分帳簿ニ記載ス可シ

第十章 領置

第百四十條 領置物ハ其品目及ヒ數量ヲ領置金品基帳ニ記載シ領置品基帳ニハ典獄之ニ證印ス可シ

第百四十一條 金錢ニ非サル領置物ハ本人ノ請求ニ因リ之ヲ賣却シテ其代金ヲ領置スルコトヲ得

領置ヲ爲サス又ハ領置ヲ解キタル物ニ付キ本人相當ノ處分ヲ爲ササルトキハ請求ナキトキト雖モ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第百四十二條 在監者ニハ新聞紙、時事ノ論說ヲ記載シタル文書及ヒ監獄ノ紀律ヲ害ス可キ物ノ差入ヲ爲スコトヲ得ス